

平成 30 年度 奨学金の返還者に関する属性調査結果

令和 2 年 6 月

独立行政法人 日本学生支援機構

< 目 次 >

I 調査の概要

II 調査結果

基礎情報

1. 奨学生本人の性別
2. 奨学本人の年齢
3. 奨学生本人の居住地
4. 奨学金の種類
5. 奨学金の貸与学種

1 回答者および奨学金申請に関すること

- | | |
|---------------------|-------|
| (1)回答者 | 表 1-1 |
| (2)奨学金申請時の書類作成者 | 表 1-2 |
| (3)だれに奨学金の申請を勧められたか | 表 1-3 |
| (4)奨学金申請を決めた時期 | 表 1-4 |
| (5)返還義務を知った時期 | 表 1-5 |

2 主な返還者について

- | | |
|-----------------------|---------------|
| (1)主な返還者 | 表 2-1 |
| (2)奨学金返還のための原資 | 表 2-2 |
| (3)主な返還者と返還のための原資との関係 | 表 2-3-1～2-3-2 |
| (4)学種と主な返還者との関係 | 表 2-4-1～2-4-2 |
| (5)同居している家族 | 表 2-5 |
| (6)年齢と同居している家族との関係 | 表 2-6-1～2-6-2 |

3 奨学生本人の職業について

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1)本人の職業 | 表 3-1-1～3-1-2 |
| (2)年齢と本人の職業との関係 | 表 3-2-1～3-2-2 |
| (3)学種と本人の職業との関係 | 表 3-3-1～3-3-2 |

4 奨学生本人の年収について

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1)本人の年収 | 表 4-1-1～4-1-2 |
| (2)本人の職業と年収との関係 | 表 4-2-1～4-2-2 |
| (3)年齢と本人の年収との関係 | 表 4-3-1～4-3-2 |
| (4)学種と本人の年収との関係 | 表 4-4-1～4-4-2 |

5	延滞の理由について※延滞者にのみ質問	
	(1)延滞が始まった理由(きっかけ)	表 5-1-1～5-1-2
	(2)延滞が継続している理由	表 5-2-1～5-2-3
	(3)延滞が始まった理由(きっかけ)と継続している理由との関係	表 5-3
	(4)主な返還者と延滞が継続している理由との関係	表 5-4
	(5)本人の年収と延滞が継続している理由との関係	表 5-5
	(6)本人の職業と延滞が継続している理由との関係	表 5-6
6	返還期限の猶予制度について	
	(1)猶予制度の認知状況	表 6-1
	(2)年齢と猶予制度の認知状況との関係	表 6-2-1～6-2-2
	(3)本人の年収と猶予制度の認知状況との関係	表 6-3-1～6-3-2
	(4)猶予制度をどこから知ったか	表 6-4
	(5)猶予制度の申請状況	表 6-5
	(6)猶予申請をしない理由	表 6-6-1～6-6-2
7	減額返還制度について	
	(1)減額返還制度の認知状況	表 7-1
	(2)年齢と減額返還制度の認知状況との関係	表 7-2-1～7-2-2
	(3)本人の年収と減額返還制度の認知状況との関係	表 7-3-1～7-3-2
	(4)減額返還制度をどこから知ったか	表 7-4
	(5)減額返還制度の利用状況	表 7-5
8	無延滞者の状況※無延滞者にのみ質問	
	(1)延滞経験の有無	表 8-1
	(2)延滞になったことをどこから知ったか	表 8-2
	(3)延滞の解消方法	表 8-3
	(4)繰上返還制度の認知状況	表 8-4
	(5)スカラネット・パーソナルの認知状況	表 8-5
	(6)所得連動返還方式を利用したいと思うか	表 8-6
9	日本学生支援機構からの情報提供について	
	(1)日本学生支援機構からの送付書類の閲覧状況	表 9-1
	(2)日本学生支援機構のホームページの閲覧状況	表 9-2
	(3)日本学生支援機構からの情報提供について	表 9-3
10	日本学生支援機構の奨学金に対する意識	
	(1)奨学金がどのように役に立ったか	表 10-1-1～10-1-2
	(2)奨学金の返還は負担になっているか	表 10-2
	(3)延滞への対応はきびしいと感じるか	表 10-3

<調査票>

奨学金の返還に関するアンケート（延滞者用）

奨学金の返還に関するアンケート（無延滞者用）

（注意）

- 1 各表は無回答・不明を除いた比率で集計している。
- 2 単位は人である。
- 3 四捨五入をした数を使用しているため、内訳の数の合計が合計欄の数と一致しない場合がある。
- 4 複数回答の設問に関する表の各回答の比率は、合計しても 100%にならない。
※ 各回答の比率は回答者数の合計に対する比率である。
- 5 表区分の年度は、調査年度を表す。

I 調査の概要

1 目的

奨学金の延滞者および無延滞者の属性を把握し、今後の奨学金回収方策に役立てることとする。

2 調査対象

- (1) 平成 30 年 11 月末において、奨学金返還を 3 か月以上延滞している者（以下「延滞者」という。）から無作為抽出した 19,658 人。
- (2) 平成 30 年 11 月末において、奨学金返還を延滞していない者（以下「無延滞者」という。）から無作為抽出した 9,674 人。

3 調査方法

質問を記入した調査票を送付し、返信用封筒による返送またはインターネットにて調査質問への回答を求めた。

4 調査時期

平成 31 年 1 月

5 回答受入状況

	抽出人数	回答人数	回答率	参考母数(平成 30 年度末)
延滞者	19,658 人	3,023 人	15.4%	156 千人
無延滞者	9,674 人	2,388 人	24.7%	3,962 千人

※ 回答人数には無回答・不明回答を含まない。

(参考) 平成 30 年度末現在の状況

① 返還を要する者（返還期日到来分のみ）	4,302 千人
② 返還している者	3,962 千人
③ 1 日以上の延滞者	339 千人
④ 3 か月以上の延滞者	156 千人

Ⅱ 調査結果

基礎情報

1 奨学生本人の性別 (単位：人)

性別	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
男性	1,580	52.3%	1,132	47.4%
女性	1,443	47.7%	1,256	52.6%
計	3,023	100.0%	2,388	100.0%

2 奨学生本人の年齢 (単位：人)

年齢	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
20代以下	503	16.6%	1,333	55.8%
30代	1,583	52.4%	979	41.0%
40代	661	21.9%	60	2.5%
50代以上	276	9.1%	16	0.7%
計	3,023	100.0%	2,388	100.0%

3 奨学生本人の居住地域 (単位：人)

地域	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
北海道	151	5.0%	101	4.2%
東北	242	8.0%	187	7.8%
関東（東京除く）	473	15.6%	514	21.5%
東京	349	11.5%	281	11.8%
甲信越（山梨、長野、新潟）	96	3.2%	97	4.1%
東海（静岡、愛知、三重、岐阜）	220	7.3%	239	10.0%
北陸	39	1.3%	54	2.3%
近畿	544	18.0%	370	15.5%
中国	155	5.1%	159	6.7%
四国	73	2.4%	72	3.0%
九州・沖縄	681	22.5%	314	13.1%
計	3,023	100.0%	2,388	100.0%

4 奨学金の種類 (単位：人)

種別	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
第一種	1,390	46.0%	969	40.6%
第二種	1,633	54.0%	1,419	59.4%
計	3,023	100.0%	2,388	100.0%

5 奨学金の貸与学種 (単位：人)

学種	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
高等学校	542	17.9%	21	0.9%
高等専門学校	12	0.4%	101	4.2%
短期大学	260	8.6%	177	7.4%
大学	1,547	51.2%	1,440	60.3%
大学院	122	4.0%	247	10.3%
専修学校専門課程	529	17.5%	396	16.6%
専修学校高等課程	11	0.4%	6	0.3%
計	3,023	100.0%	2,388	100.0%

1 回答者および奨学金申請に関すること

(1)回答者（択一）

アンケート調査に回答した者は、延滞者、無延滞者ともに、おおよそ4分の3が「奨学生本人」、5分の1が「本人の親」である。

表 1-1 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,263	75.3%	1,887	79.5%
本人の親	635	21.1%	465	19.6%
本人の配偶者・パートナー	97	3.2%	21	0.9%
その他	10	0.3%	1	0.0%
計	3,005	100.0%	2,374	100.0%
無回答	18		14	

(2)奨学金申請時の申込手続き（書類作成や入力作業）を行った者（択一）

奨学金申請時の申込手続きを行った者は、無延滞者では65.6%が「奨学生本人」であるのに対し、延滞者では36.7%と低い。また、「奨学生本人」と「本人と親等」を合わせてみても、無延滞者では82.1%であるのに対し、延滞者では55.2%と約半数しか申請時の申込手続きに奨学生本人が関わっていない。延滞者は無延滞者に比べて、親等が申請時の申込手続きを行った比率が高い。

表 1-2 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	1,100	36.7%	1,566	65.6%
親(または祖父母等の家族、親戚)	1,030	34.3%	376	15.7%
本人と親等	554	18.5%	394	16.5%
その他	9	0.3%	3	0.1%
覚えていない・わからない	307	10.2%	49	2.1%
計	3,000	100.0%	2,388	100.0%
無回答	23		0	

(3)だれに奨学金の申請を勧められたか（択一）

奨学金の申請を勧めた者については、延滞者、無延滞者ともに、「親（または祖父母等の家族、親戚）」の比率が最も高く、半数以上を占めている。一方、「学校の先生や職員が勧めた」は、延滞者では15.8%に対し、無延滞者では5.1%と、延滞者の方が無延滞者に比べて高い。

表 1-3

(単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人が自分で決めた	565	18.9%	682	28.6%
親(または祖父母等の家族、親戚)が勧めた	1,696	56.7%	1,544	64.7%
学校の先生や職員が勧めた	472	15.8%	122	5.1%
友人・知人が勧めた	38	1.3%	8	0.3%
上記以外の方が勧めた	9	0.3%	1	0.0%
計	2,992	100.0%	2,386	100.0%
無回答	31		2	

(4)奨学金申請を決めた時期（択一）

大学、短期大学、専修学校（専門課程）で奨学金の貸与を受けた者に、奨学金申請を決めた時期を質問した。

延滞者、無延滞者ともに「高校3年生の時点」の比率が最も高く、次に「高校卒業後」となっている。ただし、無延滞者の方が延滞者より「高校3年生の時点」の比率が高く、延滞者の方が無延滞者より「高校卒業後」の比率が高い。

表 1-4

(単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
高校入学より前	78	3.4%	89	4.5%
高校1年生の時点	54	2.4%	41	2.1%
高校2年生の時点	50	2.2%	124	6.2%
高校3年生の時点	990	43.8%	1,074	54.1%
高校卒業後	775	34.3%	557	28.0%
わからない	314	13.9%	101	5.1%
計	2,261	100.0%	1,986	100.0%
無回答	75		27	

(5)返還義務を知った時期（択一）

返還義務を知った時期は、無延滞者では「申込手続きを行う前」が90.1%に対し、延滞者では51.1%と約半数にとどまり、申込手続きまでの認識が十分でないことがうかがえる。また、延滞者では、貸与終了後に返還義務を知った者の合計は20.1%で、その半数以上の11.5%は「延滞督促を受けてから」知ったと回答している。

表 1-5 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	1,517	51.1%	2,148	90.1%
申込手続中	386	13.0%	128	5.4%
貸与中	189	6.4%	45	1.9%
貸与終了時	78	2.6%	14	0.6%
貸与終了後～返還開始前	128	4.3%	15	0.6%
返還開始～督促前	127	4.3%	7	0.3%
延滞督促を受けてから	341	11.5%	1	0.0%
その他	26	0.9%	0	0.0%
わからない	176	5.9%	26	1.1%
計	2,968	100.0%	2,384	100.0%
無回答	55		4	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	1,677	50.9%	1,408	50.5%	1,478	51.2%	1,790	49.5%
申込手続中	456	13.9%	372	13.3%	367	12.7%	468	12.9%
貸与中	225	6.8%	186	6.7%	184	6.4%	239	6.6%
貸与終了時	109	3.3%	102	3.7%	87	3.0%	127	3.5%
貸与終了後～返還開始前	130	3.9%	134	4.8%	116	4.0%	181	5.0%
返還開始～督促前	148	4.5%	124	4.4%	158	5.5%	181	5.0%
延滞督促を受けてから	351	10.7%	322	11.5%	314	10.9%	355	9.8%
その他	35	1.1%	9	0.3%	28	1.0%	39	1.1%
わからない	161	4.9%	132	4.7%	155	5.4%	239	6.6%
計	3,292	100.0%	2,789	100.0%	2,887	100.0%	3,619	100.0%

【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	2,041	89.0%	2,133	89.1%	2,752	88.6%	1,951	90.3%
申込手続中	129	5.6%	136	5.7%	181	5.8%	114	5.3%
貸与中	64	2.8%	67	2.8%	76	2.4%	40	1.9%
貸与終了時	13	0.6%	15	0.6%	19	0.6%	14	0.6%
貸与終了後～返還開始前	19	0.8%	23	1.0%	20	0.6%	16	0.7%
返還開始～督促前	7	0.3%	3	0.1%	13	0.4%	2	0.1%
延滞督促を受けてから	3	0.1%	6	0.3%	3	0.1%	4	0.2%
その他	1	0.0%	0	0.0%	7	0.2%	2	0.1%
わからない	15	0.7%	12	0.5%	34	1.1%	17	0.8%
計	2,292	100.0%	2,395	100.0%	3,105	100.0%	2,160	100.0%

2 主な返還者について

(1)主な返還者（択一）

「奨学生本人」が返還している比率は、延滞者では75.5%であるのに対し、無延滞者では86.0%である。一方、「本人の親」が返還している比率は、延滞者では20.2%で、無延滞者の10.9%に比べて高い。

表 2-1 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,268	75.5%	2,053	86.0%
本人の親	606	20.2%	260	10.9%
本人の配偶者・パートナー	67	2.2%	57	2.4%
その他	61	2.0%	17	0.7%
計	3,002	100.0%	2,387	100.0%
無回答	21		1	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,238	67.5%	1,915	68.1%	2,075	71.2%	2,410	65.2%
本人の親	700	21.1%	511	18.2%	750	25.7%	1,151	31.1%
本人の配偶者・パートナー	69	2.1%	69	2.5%	50	1.7%	52	1.4%
その他	18	0.5%	8	0.3%	40	1.4%	83	2.2%
現在は返還できていない	290	8.7%	307	10.9%	-	-	-	-
計	3,315	100.0%	2,810	100.0%	2,915	100.0%	3,696	100.0%

【無延滞者】

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	1,935	84.3%	2,045	85.2%	2,669	85.9%	1,808	83.8%
本人の親	280	12.2%	280	11.7%	356	11.5%	300	13.9%
本人の配偶者・パートナー	70	3.1%	74	3.1%	72	2.3%	42	1.9%
その他	10	0.4%	0	0.0%	10	0.3%	8	0.4%
計	2,295	100.0%	2,399	100.0%	3,107	100.0%	2,158	100.0%

(2) 奨学金返還のための原資（択一）

奨学金返還のための原資は、延滞者、無延滞者ともに、「給与など働いて得る収入」が最も高い。一方、延滞者では「年金」の比率が8.4%と、無延滞者の1.0%に比べて高い。

表 2-2 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
給与など働いて得る収入	2,161	72.4%	2,261	94.8%
預貯金	37	1.2%	90	3.8%
年金	251	8.4%	25	1.0%
公的な補助金・給付金	29	1.0%	4	0.2%
その他	29	1.0%	6	0.3%
現在は返還できていない	477	16.0%	-	-
計	2,984	100.0%	2,386	100.0%
無回答	39		2	

(3) 主な返還者と返還のための原資との関係

主な返還者と返還のための原資との関係を見ると、主な返還者がいずれの場合も「給与など働いて得る収入」の比率が最も高い。一方、主な返還者が「本人の親」の場合は、「年金」を原資としている比率が他の返還者に比べて高い。

表 2-3-1 主な返還者×原資【延滞者】 (単位：人)

原資 \ 主な返還者	奨学生本人		本人の親		本人の配偶者・パートナー		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
給与など働いて得る収入	1,789	79.2%	275	46.1%	58	86.6%	37	63.8%
預貯金	27	1.2%	9	1.5%	1	1.5%	0	0.0%
年金	14	0.6%	230	38.6%	0	0.0%	6	10.3%
公的な補助金・給付金	20	0.9%	9	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	14	0.6%	11	1.8%	1	1.5%	3	5.2%
現在は返還できていない	395	17.5%	62	10.4%	7	10.4%	12	20.7%
計	2,259	100.0%	596	100.0%	67	100.0%	58	100.0%

表 2-3-2 主な返還者×原資【無延滞者】 (単位：人)

原資 \ 主な返還者	奨学生本人		本人の親		本人の配偶者・パートナー		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
給与など働いて得る収入	1,975	96.2%	212	82.2%	57	100.0%	17	100.0%
預貯金	67	3.3%	22	8.5%	0	0.0%	0	0.0%
年金	2	0.1%	23	8.9%	0	0.0%	0	0.0%
公的な補助金・給付金	4	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	5	0.2%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
計	2,053	100.0%	258	100.0%	57	100.0%	17	100.0%

(4)学種と主な返還者との関係

学種と主な返還者との関係を見ると、無延滞者では上級校ほど「奨学生本人」が返還している比率が高い傾向がある。延滞者では高等学校で「本人の親」が返還している比率が特に高い。

表 2-4-1 学種×主な返還者【延滞者】

学種 主な返還者	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	351	65.5%	7	58.3%	212	81.5%
本人の親	157	29.3%	3	25.0%	37	14.2%
本人の配偶者・パートナー	16	3.0%	0	0.0%	7	2.7%
その他	12	2.2%	2	16.7%	4	1.5%
計	536	100.0%	12	100.0%	260	100.0%

(単位：人)

学種 主な返還者	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	1,180	76.9%	113	93.4%	398	75.5%	7	63.6%
本人の親	302	19.7%	8	6.6%	96	18.2%	3	27.3%
本人の配偶者・パートナー	26	1.7%	0	0.0%	18	3.4%	0	0.0%
その他	27	1.8%	0	0.0%	15	2.8%	1	9.1%
計	1,535	100.0%	121	100.0%	527	100.0%	11	100.0%

表 2-4-2 学種×主な返還者【無延滞者】

学種 主な返還者	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	15	71.4%	89	88.1%	149	84.2%
本人の親	5	23.8%	11	10.9%	16	9.0%
本人の配偶者・パートナー	1	4.8%	0	0.0%	9	5.1%
その他	0	0.0%	1	1.0%	3	1.7%
計	21	100.0%	101	100.0%	177	100.0%

(単位：人)

学種 主な返還者	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	1,225	85.1%	227	91.9%	345	87.3%	3	50.0%
本人の親	171	11.9%	15	6.1%	40	10.1%	2	33.3%
本人の配偶者・パートナー	34	2.4%	5	2.0%	7	1.8%	1	16.7%
その他	10	0.7%	0	0.0%	3	0.8%	0	0.0%
計	1,440	100.0%	247	100.0%	395	100.0%	6	100.0%

(5)同居している家族（複数回答）

延滞者、無延滞者ともに、「本人の配偶者・パートナー」と暮らしている比率は4割強で、「奨学生本人の親」と同居している比率は3割弱、「一人暮らし」は2割強である。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 2-5 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	885	29.6%	681	28.6%
本人の配偶者・パートナー	1,302	43.5%	1,044	43.8%
子ども	779	26.0%	539	22.6%
その他	139	4.6%	80	3.4%
一人暮らし	636	21.2%	641	26.9%
わからない	49	1.6%	3	0.1%
回答者数	2,994		2,384	
無回答	29		4	

(6)年齢と同居している家族との関係

年齢と同居している家族との関係を見ると、延滞者では、年代を経るごとに比率は低下するもののどの年代でも「奨学生本人の親」との同居率が高く、無延滞者では30代以降で「本人の配偶者・パートナー」、「子ども」との同居率が高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 2-6-1 年齢×同居している家族【延滞者】 (単位：人)

同居家族	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	193	38.4%	458	29.2%	175	26.8%	59	21.7%
本人の配偶者・パートナー	125	24.9%	738	47.1%	308	47.2%	131	48.2%
子ども	65	12.9%	442	28.2%	199	30.5%	73	26.8%
その他	35	7.0%	65	4.1%	25	3.8%	14	5.1%
一人暮らし	154	30.7%	293	18.7%	124	19.0%	65	23.9%
わからない	3	0.6%	23	1.5%	19	2.9%	4	1.5%
回答者数	502		1567		653		272	

表 2-6-2 年齢×同居している家族【無延滞者】 (単位：人)

同居家族	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	512	38.5%	155	15.8%	11	18.3%	3	18.8%
本人の配偶者・パートナー	348	26.2%	652	66.7%	40	66.7%	4	25.0%
子ども	108	8.1%	399	40.8%	28	46.7%	4	25.0%
その他	52	3.9%	26	2.7%	2	3.3%	0	0.0%
一人暮らし	449	33.8%	176	18.0%	10	16.7%	6	37.5%
わからない	1	0.1%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	1,330		978		60		16	

3 奨学生本人の職業について

(1)本人の職業（択一）

奨学生本人の職業は、延滞者では「正社（職）員・従業員」43.2%、「非正規社（職）員・従業員」30.9%、「無職・失業中／休職中」11.3%であるのに対し、無延滞者では「正社（職）員・従業員」72.2%、「非正規社（職）員・従業員」14.7%、「無職・失業中／休職中」4.0%で、無延滞者の方が延滞者より安定した就業状況にあるといえる。

男女別でみると、延滞者の女性で「非正規社（職）員・従業員」の比率が特に高い。

表 3-1-1 【延滞者：男女別】

(単位：人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	863	55.1%	433	30.2%	1,296	43.2%
非正規社（職）員・従業員	343	21.9%	583	40.7%	926	30.9%
自営業/家業	147	9.4%	54	3.8%	201	6.7%
学生(留学を含む)	6	0.4%	11	0.8%	17	0.6%
専業主婦(夫)	1	0.1%	161	11.2%	162	5.4%
無職・失業中/休職中	164	10.5%	174	12.2%	338	11.3%
その他	42	2.7%	16	1.1%	58	1.9%
計	1,566	100.0%	1,432	100.0%	2,998	100.0%
無回答	14		11		25	

表 3-1-2 【無延滞者：男女別】

(単位：人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	935	82.7%	788	62.8%	1,723	72.2%
非正規社（職）員・従業員	87	7.7%	264	21.0%	351	14.7%
自営業/家業	42	3.7%	19	1.5%	61	2.6%
学生(留学を含む)	20	1.8%	7	0.6%	27	1.1%
専業主婦(夫)	0	0.0%	118	9.4%	118	4.9%
無職・失業中/休職中	41	3.6%	55	4.4%	96	4.0%
その他	6	0.5%	4	0.3%	10	0.4%
計	1,131	100.0%	1,255	100.0%	2,386	100.0%
無回答	1		1		2	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	1,349	41.0%	1,126	40.6%	1,185	40.6%	1,427	38.8%
非正規社（職）員・従業員	1,073	32.6%	915	33.0%	992	34.0%	1,080	29.3%
自営業/家業	199	6.1%	156	5.6%	156	5.3%	180	4.9%
学生(留学を含む)	19	0.6%	7	0.3%	12	0.4%	14	0.4%
専業主婦(夫)	180	5.5%	192	6.9%	186	6.4%	241	6.5%
無職・失業中/休職中	431	13.1%	343	12.4%	333	11.4%	572	15.5%
その他	38	1.2%	33	1.2%	52	1.8%	168	4.6%
計	3,289	100.0%	2,772	100.0%	2,916	100.0%	3,682	100.0%

【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	1,678	73.2%	1,748	73.4%	2,146	69.0%	1,522	70.3%
非正規社（職）員・従業員	352	15.4%	347	14.6%	554	17.8%	345	15.9%
自営業/家業	39	1.7%	39	1.6%	77	2.5%	52	2.4%
学生(留学を含む)	24	1.0%	17	0.7%	36	1.2%	29	1.3%
専業主婦(夫)	114	5.0%	141	5.9%	168	5.4%	105	4.8%
無職・失業中/休職中	82	3.6%	70	2.9%	122	3.9%	93	4.3%
その他	4	0.2%	21	0.9%	9	0.3%	20	0.9%
計	2,293	100.0%	2,383	100.0%	3,112	100.0%	2,166	100.0%

(2)年齢と本人の職業との関係

表 3-2-1 年齢×本人の職業【延滞者】

(単位：人)

職業	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	219	43.6%	718	45.7%	290	44.5%	69	25.3%
非正規社（職）員・従業員	177	35.3%	474	30.2%	186	28.5%	89	32.6%
自営業/家業	12	2.4%	90	5.7%	49	7.5%	50	18.3%
学生(留学を含む)	4	0.8%	12	0.8%	1	0.2%	0	0.0%
専業主婦(夫)	20	4.0%	102	6.5%	31	4.8%	9	3.3%
無職・失業中/休職中	68	13.5%	156	9.9%	77	11.8%	37	13.6%
その他	2	0.4%	19	1.2%	18	2.8%	19	7.0%
計	502	100.0%	1,571	100.0%	652	100.0%	273	100.0%

表 3-2-2 年齢×本人の職業【無延滞者】

(単位：人)

年齢 職業	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員	977	73.4%	702	71.7%	37	61.7%	7	43.8%
非正規社(職)員・従業員	207	15.6%	129	13.2%	9	15.0%	6	37.5%
自営業/家業	18	1.4%	32	3.3%	9	15.0%	2	12.5%
学生(留学を含む)	22	1.7%	5	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
専業主婦(夫)	41	3.1%	73	7.5%	4	6.7%	0	0.0%
無職・失業中/休職中	61	4.6%	33	3.4%	1	1.7%	1	6.3%
その他	5	0.4%	5	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
計	1,331	100.0%	979	100.0%	60	100.0%	16	100.0%

(3)学種と本人の職業との関係

表 3-3-1 学種×本人の職業【延滞者】

職業	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員	183	34.3%	6	50.0%	91	35.1%
非正規社(職)員・従業員	196	36.8%	3	25.0%	109	42.1%
自営業/家業	19	3.6%	1	8.3%	6	2.3%
学生(留学を含む)	1	0.2%	0	0.0%	5	1.9%
専業主婦(夫)	47	8.8%	0	0.0%	27	10.4%
無職・失業中/休職中	73	13.7%	2	16.7%	20	7.7%
計	533	100.0%	12	100.0%	259	100.0%

(単位：人)

職業	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員	774	50.5%	44	36.1%	195	36.9%	3	27.3%
非正規社(職)員・従業員	390	25.4%	38	31.1%	186	35.2%	4	36.4%
自営業/家業	122	8.0%	20	16.4%	33	6.3%	0	0.0%
学生(留学を含む)	7	0.5%	1	0.8%	3	0.6%	0	0.0%
専業主婦(夫)	52	3.4%	3	2.5%	30	5.7%	3	27.3%
無職・失業中/休職中	159	10.4%	9	7.4%	74	14.0%	1	9.1%
計	1,533	100.0%	122	100.0%	528	100.0%	11	100.0%

表 3-3-2 学種×本人の職業【無延滞者】

職業 \ 学種	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	14	66.7%	92	91.1%	101	57.1%
非正規社（職）員・従業員	3	14.3%	2	2.0%	45	25.4%
自営業/家業	1	4.8%	2	2.0%	2	1.1%
学生(留学を含む)	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
専業主婦(夫)	3	14.3%	2	2.0%	23	13.0%
無職・失業中/休職中	0	0.0%	2	2.0%	6	3.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	21	100.0%	101	100.0%	177	100.0%

(単位：人)

職業 \ 学種	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員	1,074	74.6%	194	78.5%	246	62.3%	2	33.3%
非正規社（職）員・従業員	182	12.6%	28	11.3%	90	22.8%	1	16.7%
自営業/家業	34	2.4%	8	3.2%	14	3.5%	0	0.0%
学生(留学を含む)	22	1.5%	1	0.4%	3	0.8%	0	0.0%
専業主婦(夫)	66	4.6%	6	2.4%	17	4.3%	1	16.7%
無職・失業中/休職中	57	4.0%	6	2.4%	23	5.8%	2	33.3%
その他	4	0.3%	4	1.6%	2	0.5%	0	0.0%
計	1,439	100.0%	247	100.0%	395	100.0%	6	100.0%

4 奨学生本人の年収について

(1)本人の年収（択一）

奨学生本人の年収について、「年収 300 万円未満」の比率は、延滞者では合計 66.8%であるのに対し、無延滞者では合計 46.3%と大きな差がみられる。男女別でみると、延滞者、無延滞者ともに、男性より女性の方が収入の低い区分の比率が高く、特に延滞者の女性で 200 万円未満の比率が高い。

表 4-1-1【延滞者：男女別】 (単位：人)

区分	男		女		計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
0円	92	5.9%	194	13.5%	286	9.5%	66.8%
1円～100万円未満	145	9.3%	300	20.9%	445	14.8%	
100万～200万円未満	251	16.0%	346	24.1%	597	19.9%	
200万～300万円未満	368	23.5%	309	21.6%	677	22.6%	
300万～400万円未満	319	20.4%	158	11.0%	477	15.9%	29.0%
400万～500万円未満	176	11.2%	42	2.9%	218	7.3%	
500万～600万円未満	73	4.7%	22	1.5%	95	3.2%	
600万～700万円未満	33	2.1%	9	0.6%	42	1.4%	
700万～800万円未満	16	1.0%	4	0.3%	20	0.7%	
800万～900万円未満	7	0.4%	0	0.0%	7	0.2%	
900万円以上	8	0.5%	2	0.1%	10	0.3%	
わからない	79	5.0%	47	3.3%	126	4.2%	4.2%
計	1,567	100.0%	1,433	100.0%	3,000	100.0%	100.0%
無回答	13		10		23		

表 4-1-2【無延滞者：男女別】 (単位：人)

区分	男		女		計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
0円	21	1.9%	98	7.8%	119	5.0%	46.3%
1円～100万円未満	40	3.6%	115	9.2%	155	6.5%	
100万～200万円未満	74	6.6%	209	16.7%	283	11.9%	
200万～300万円未満	176	15.6%	369	29.5%	545	22.9%	
300万～400万円未満	257	22.8%	238	19.0%	495	20.8%	51.6%
400万～500万円未満	197	17.5%	133	10.6%	330	13.9%	
500万～600万円未満	136	12.1%	41	3.3%	177	7.4%	
600万～700万円未満	83	7.4%	19	1.5%	102	4.3%	
700万～800万円未満	38	3.4%	5	0.4%	43	1.8%	
800万～900万円未満	21	1.9%	5	0.4%	26	1.1%	
900万円以上	52	4.6%	3	0.2%	55	2.3%	
わからない	31	2.8%	17	1.4%	48	2.0%	2.0%
計	1,126	100.0%	1,252	100.0%	2,378	100.0%	99.9%
無回答	6		4		10		

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	人数	比率		人数	比率		人数	比率	
0円	375	11.4%	70.1%	356	12.8%	73.1%	334	11.7%	77.0%
1円～100万円未満	519	15.8%		443	15.9%		485	17.0%	
100万～200万円未満	704	21.4%		619	22.2%		726	25.4%	
200万～300万円未満	707	21.5%		620	22.2%		657	23.0%	
300万～400万円未満	460	14.0%	26.5%	355	12.7%	24.5%	390	13.6%	23.0%
400万～500万円未満	202	6.2%		183	6.6%		163	5.7%	
500万～600万円未満	104	3.2%		91	3.3%		65	2.3%	
600万～700万円未満	42	1.3%		31	1.1%		22	0.8%	
700万～800万円未満	25	0.8%		12	0.4%		8	0.3%	
800万～900万円未満	14	0.4%		4	0.1%		5	0.2%	
900万円以上	21	0.6%	8	0.3%	4	0.1%			
わからない	110	3.4%	3.4%	67	2.4%	2.4%	-	-	-
計	3,283	100.0%	100.0%	2,789	100.0%	100.0%	2,859	100.0%	100.0%

【無延滞者】

区分	平成29年度			平成28年度			平成27年度		
	人数	比率		人数	比率		人数	比率	
0円	119	5.2%	47.4%	132	5.5%	48.7%	181	5.9%	55.9%
1円～100万円未満	159	7.0%		143	6.0%		241	7.8%	
100万～200万円未満	274	12.0%		340	14.2%		483	15.7%	
200万～300万円未満	530	23.2%		547	22.9%		812	26.4%	
300万～400万円未満	498	21.8%	51.3%	507	21.2%	50.0%	571	18.6%	44.1%
400万～500万円未満	298	13.1%		315	13.2%		354	11.5%	
500万～600万円未満	170	7.4%		163	6.8%		198	6.4%	
600万～700万円未満	76	3.3%		81	3.4%		95	3.1%	
700万～800万円未満	52	2.3%		56	2.3%		59	1.9%	
800万～900万円未満	30	1.3%		29	1.2%		26	0.8%	
900万円以上	48	2.1%	44	1.8%	53	1.7%			
わからない	29	1.3%	1.3%	31	1.3%	1.3%	-	-	-
計	2,283	100.0%	100.0%	2,388	100.0%	100.0%	3,073	100.0%	100.0%

(2)本人の職業と年収との関係

奨学生本人の職業と年収との関係を見ると、延滞者、無延滞者ともに「正社（職）員・従業員」は「200万～400万円未満」、「非正規社（職）員・従業員」および「自営業/家業」は「100万～200万円未満」の比率が高い。

表 4-2-1 本人の職業×年収【延滞者】

年収 \ 職業	正社（職）員 ・従業員		非正規社（職） 員・従業員		自営業/家業	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	5	0.4%	4	0.4%	6	3.0%
1円～100万円未満	15	1.2%	238	25.8%	49	24.6%
100万～200万円未満	117	9.1%	367	39.7%	52	26.1%
200万～300万円未満	374	29.0%	214	23.2%	49	24.6%
300万～400万円未満	385	29.9%	60	6.5%	19	9.5%
400万～500万円未満	198	15.4%	10	1.1%	7	3.5%
500万～600万円未満	88	6.8%	3	0.3%	2	1.0%
600万～700万円未満	37	2.9%	1	0.1%	2	1.0%
700万～800万円未満	17	1.3%	0	0.0%	2	1.0%
800万～900万円未満	7	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	9	0.7%	0	0.0%	1	0.5%
わからない	37	2.9%	27	2.9%	10	5.0%
計	1,289	100.0%	924	100.0%	199	100.0%

(単位：人)

年収 \ 職業	学生(留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中 /休職中		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	6	35.3%	116	72.0%	139	41.4%	9	16.4%
1円～100万円未満	7	41.2%	30	18.6%	91	27.1%	9	16.4%
100万～200万円未満	2	11.8%	3	1.9%	43	12.8%	10	18.2%
200万～300万円未満	0	0.0%	4	2.5%	30	8.9%	4	7.3%
300万～400万円未満	0	0.0%	3	1.9%	9	2.7%	0	0.0%
400万～500万円未満	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%	1	1.8%
500万～600万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%
600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	1.8%
700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%
800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	2	11.8%	4	2.5%	21	6.3%	20	36.4%
計	17	100.0%	161	100.0%	336	100.0%	55	100.0%

表 4-2-2 本人の職業×年収【無延滞者】

職業 年収	正社(職)員 ・従業員		非正規社(職) 員・従業員		自営業/家業	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
1円～100万円未満	8	0.5%	67	19.1%	8	13.1%
100万～200万円未満	91	5.3%	157	44.7%	12	19.7%
200万～300万円未満	436	25.4%	81	23.1%	12	19.7%
300万～400万円未満	453	26.4%	29	8.3%	9	14.8%
400万～500万円未満	316	18.4%	2	0.6%	5	8.2%
500万～600万円未満	169	9.9%	3	0.9%	3	4.9%
600万～700万円未満	98	5.7%	2	0.6%	2	3.3%
700万～800万円未満	41	2.4%	0	0.0%	1	1.6%
800万～900万円未満	26	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	47	2.7%	1	0.3%	6	9.8%
わからない	28	1.6%	9	2.6%	3	4.9%
計	1,715	100.0%	351	100.0%	61	100.0%

(単位：人)

職業 年収	学生(留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中 /休職中		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	9	33.3%	76	64.4%	30	31.3%	2	20.0%
1円～100万円未満	12	44.4%	27	22.9%	33	34.4%	0	0.0%
100万～200万円未満	1	3.7%	8	6.8%	13	13.5%	1	10.0%
200万～300万円未満	1	3.7%	2	1.7%	12	12.5%	1	10.0%
300万～400万円未満	1	3.7%	1	0.8%	1	1.0%	1	10.0%
400万～500万円未満	1	3.7%	1	0.8%	3	3.1%	2	20.0%
500万～600万円未満	1	3.7%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%
600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
わからない	1	3.7%	3	2.5%	3	3.1%	1	10.0%
計	27	100.0%	118	100.0%	96	100.0%	10	100.0%

(3)年齢と本人の年収との関係

年齢と奨学生本人の年収との関係を見ると、延滞者では20代と30代以降で収入にあまり変化がみられないのに対し、無延滞者では20代より30代の収入が高い。

表 4-3-1 年齢×本人の年収【延滞者】

(単位：人)

年齢 年収	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	36	7.2%	164	10.4%	65	10.0%	21	7.7%
1円～100万円未満	97	19.4%	203	12.9%	93	14.3%	52	19.2%
100万～200万円未満	113	22.6%	305	19.3%	111	17.0%	68	25.1%
200万～300万円未満	146	29.3%	352	22.3%	131	20.1%	48	17.7%
300万～400万円未満	67	13.4%	264	16.7%	113	17.3%	33	12.2%
400万～500万円未満	23	4.6%	132	8.4%	48	7.4%	15	5.5%
500万～600万円未満	2	0.4%	61	3.9%	20	3.1%	12	4.4%
600万～700万円未満	0	0.0%	21	1.3%	18	2.8%	3	1.1%
700万～800万円未満	2	0.4%	10	0.6%	2	0.3%	6	2.2%
800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	6	0.9%	1	0.4%
900万円以上	0	0.0%	2	0.1%	6	0.9%	2	0.7%
わからない	13	2.6%	64	4.1%	39	6.0%	10	3.7%
計	499	100.0%	1,578	100.0%	652	100.0%	271	100.0%

表 4-3-2 年齢×本人の年収【無延滞者】

(単位：人)

年齢 年収	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	49	3.7%	65	6.7%	5	8.3%	0	0.0%
1円～100万円未満	85	6.4%	67	6.9%	2	3.3%	1	6.3%
100万～200万円未満	203	15.3%	70	7.2%	4	6.7%	6	37.5%
200万～300万円未満	425	32.1%	107	11.0%	10	16.7%	3	18.8%
300万～400万円未満	311	23.5%	181	18.5%	3	5.0%	0	0.0%
400万～500万円未満	144	10.9%	172	17.6%	11	18.3%	3	18.8%
500万～600万円未満	53	4.0%	120	12.3%	4	6.7%	0	0.0%
600万～700万円未満	18	1.4%	79	8.1%	5	8.3%	0	0.0%
700万～800万円未満	4	0.3%	36	3.7%	3	5.0%	0	0.0%
800万～900万円未満	2	0.2%	17	1.7%	4	6.7%	3	18.8%
900万円以上	4	0.3%	43	4.4%	8	13.3%	0	0.0%
わからない	28	2.1%	19	1.9%	1	1.7%	0	0.0%
計	1,326	100.0%	976	100.0%	60	100.0%	16	100.0%

(4)学種と本人の年収との関係

表 4-4-1 学種×本人の年収【延滞者】

学種 年収	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	79	14.7%	2	16.7%	32	12.3%
1円～100万円未満	94	17.5%	0	0.0%	60	23.1%
100万～200万円未満	136	25.3%	0	0.0%	54	20.8%
200万～300万円未満	121	22.5%	5	41.7%	68	26.2%
300万～400万円未満	61	11.3%	3	25.0%	27	10.4%
400万～500万円未満	11	2.0%	1	8.3%	5	1.9%
500万～600万円未満	5	0.9%	0	0.0%	4	1.5%
600万～700万円未満	4	0.7%	0	0.0%	1	0.4%
700万～800万円未満	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	25	4.6%	1	8.3%	9	3.5%
計	538	100.0%	12	100.0%	260	100.0%

(単位：人)

学種 年収	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	113	7.4%	4	3.3%	53	10.1%	3	27.3%
1円～100万円未満	187	12.2%	17	14.0%	86	16.3%	1	9.1%
100万～200万円未満	256	16.7%	23	19.0%	126	24.0%	2	18.2%
200万～300万円未満	322	21.0%	22	18.2%	138	26.2%	1	9.1%
300万～400万円未満	301	19.6%	22	18.2%	61	11.6%	2	18.2%
400万～500万円未満	158	10.3%	8	6.6%	34	6.5%	1	9.1%
500万～600万円未満	75	4.9%	7	5.8%	4	0.8%	0	0.0%
600万～700万円未満	27	1.8%	7	5.8%	3	0.6%	0	0.0%
700万～800万円未満	17	1.1%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
800万～900万円未満	3	0.2%	4	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	6	0.4%	3	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	67	4.4%	2	1.7%	21	4.0%	1	9.1%
計	1,532	100.0%	121	100.0%	526	100.0%	11	100.0%

表 4-4-2 学種×本人の年収【無延滞者】

学種 年収	高等学校		高等専門学校		短期大学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	2	9.5%	2	2.0%	18	10.2%
1円～100万円未満	1	4.8%	2	2.0%	20	11.3%
100万～200万円未満	3	14.3%	5	5.0%	39	22.0%
200万～300万円未満	4	19.0%	16	15.8%	61	34.5%
300万～400万円未満	4	19.0%	21	20.8%	30	16.9%
400万～500万円未満	3	14.3%	18	17.8%	6	3.4%
500万～600万円未満	1	4.8%	15	14.9%	1	0.6%
600万～700万円未満	1	4.8%	11	10.9%	1	0.6%
700万～800万円未満	0	0.0%	6	5.9%	0	0.0%
800万～900万円未満	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%
900万円以上	1	4.8%	1	1.0%	0	0.0%
わからない	1	4.8%	2	2.0%	1	0.6%
計	21	100.0%	101	100.0%	177	100.0%

(単位：人)

学種 年収	大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等程	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	69	4.8%	7	2.8%	19	4.8%	2	33.3%
1円～100万円未満	89	6.2%	12	4.9%	29	7.4%	2	33.3%
100万～200万円未満	146	10.2%	10	4.0%	80	20.3%	0	0.0%
200万～300万円未満	320	22.3%	18	7.3%	125	31.7%	1	16.7%
300万～400万円未満	318	22.2%	39	15.8%	83	21.1%	0	0.0%
400万～500万円未満	222	15.5%	45	18.2%	35	8.9%	1	16.7%
500万～600万円未満	119	8.3%	30	12.1%	11	2.8%	0	0.0%
600万～700万円未満	54	3.8%	34	13.8%	1	0.3%	0	0.0%
700万～800万円未満	21	1.5%	16	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
800万～900万円未満	10	0.7%	14	5.7%	0	0.0%	0	0.0%
900万円以上	35	2.4%	17	6.9%	1	0.3%	0	0.0%
わからない	29	2.0%	5	2.0%	10	2.5%	0	0.0%
計	1,432	100.0%	247	100.0%	394	100.0%	6	100.0%

5 延滞の理由について※延滞者にのみ質問。

(1)延滞が始まった理由（きっかけ）（複数回答）

延滞が始まった理由（きっかけ）は、「家計の収入が減った」が67.1%で最も高く、次いで「家計の支出が増えた」39.5%、「入院、事故、災害等にあったため」18.1%、「忙しかった」14.1%である。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 5-1-1 延滞が始まった理由（複数回答）×男女別 (単位：人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	200	12.8%	222	15.5%	422	14.1%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	173	11.1%	179	12.5%	352	11.8%
家計の収入が減った	999	64.0%	1,008	70.5%	2,007	67.1%
家計の支出が増えた	604	38.7%	577	40.3%	1,181	39.5%
入院、事故、災害等にあったため	301	19.3%	240	16.8%	541	18.1%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	58	3.7%	71	5.0%	129	4.3%
その他	387	24.8%	416	29.1%	803	26.9%
回答者数	1,560		1,430		2,990	
無回答	20		13		33	

<参考> 過年度調査の結果【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	459	13.9%	404	14.3%	632	23.1%	511	13.9%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	328	9.9%	297	10.5%	488	17.9%	404	11.0%
家計の収入が減った	2,240	67.8%	1,948	69.2%	2,081	76.1%	2,562	69.4%
家計の支出が増えた	1,328	40.2%	1,210	43.0%	1,391	50.9%	1,547	41.9%
入院、事故、災害等にあったため	656	19.9%	540	19.2%	617	22.6%	850	23.0%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	127	3.8%	124	4.4%	123	4.5%	91	2.5%
その他	908	27.5%	839	29.8%	617	22.6%	936	25.4%
回答者数	3,303		2,817		2,733		3,689	

表 5-1-2 延滞が始まった最たる理由（択一）×男女別 (単位：人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	58	4.1%	45	3.4%	103	3.8%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	61	4.3%	47	3.6%	108	4.0%
家計の収入が減った	602	42.7%	604	46.0%	1,206	44.3%
家計の支出が増えた	251	17.8%	205	15.6%	456	16.8%
入院、事故、災害等にあったため	115	8.2%	76	5.8%	191	7.0%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	30	2.1%	31	2.4%	61	2.2%
その他	292	20.7%	304	23.2%	596	21.9%
計	1,409	100.0%	1,312	100.0%	2,721	100.0%
無回答	171		131		302	

(2)延滞が継続している理由（複数回答）

延滞が継続している理由は、「本人の低所得」が 64.0%で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」39.9%である。男女別でみると、男性は女性に比べて「本人の借入金の返済」の比率が高く、女性は男性に比べて「本人の配偶者の経済困難」の比率が高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は 100%を超える。

表 5-2-1 延滞が継続している理由（複数回答）×男女別 (単位：人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	966	62.3%	939	65.8%	1,905	64.0%
本人が失業中(無職)	354	22.8%	370	25.9%	724	24.3%
本人が学生(留学を含む)	31	2.0%	36	2.5%	67	2.3%
本人が病気療養中	154	9.9%	185	13.0%	339	11.4%
本人の借入金の返済	545	35.2%	365	25.6%	910	30.6%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助をしており支出が多い）	327	21.1%	351	24.6%	678	22.8%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）	315	20.3%	359	25.2%	674	22.6%
本人の配偶者の経済困難	77	5.0%	170	11.9%	247	8.3%
家族の病気療養	252	16.3%	228	16.0%	480	16.1%
忙しい（金融機関に行けない等）	133	8.6%	130	9.1%	263	8.8%
奨学金の延滞額の増加	598	38.6%	590	41.3%	1,188	39.9%
奨学金は返還するものだとは思っていない	33	2.1%	28	2.0%	61	2.0%
その他	126	8.1%	123	8.6%	249	8.4%
回答者数	1,550		1,427		2,977	
無回答	30		16		46	

<参考> 過年度調査の結果【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	2,120	64.4%	1,817	64.5%	1,838	67.2%	1,883	51.6%
本人が失業中(無職)	805	24.4%	771	27.4%	483	17.7%	606	16.6%
本人が学生(留学を含む)	59	1.8%	56	2.0%	37	1.4%	28	0.8%
本人が病気療養中	412	12.5%	324	11.5%	194	7.1%	274	7.5%
本人の借入金の返済	964	29.3%	870	30.9%	952	34.8%	948	26.0%
本人親の経済困難(本人が親へ経済援助をしております支出が多い)	796	24.2%	728	25.8%	815	29.8%	944	25.9%
本人親の経済困難(本人の親が返還する約束をしている)	784	23.8%	690	24.5%	568	20.8%	738	20.2%
本人の配偶者の経済困難	277	8.4%	256	9.1%	250	9.1%	330	9.0%
家族の病気療養	531	16.1%	464	16.5%	355	13.0%	445	12.2%
忙しい(金融機関に行けない等)	267	8.1%	233	8.3%	264	9.7%	258	7.1%
奨学金の延滞額の増加	1,483	45.0%	1,338	47.5%	1,472	53.8%	1,707	46.8%
奨学金は返還するものだとは思っていない	46	1.4%	53	1.9%	42	1.5%	21	0.6%
その他	266	8.1%	245	8.7%	200	7.3%	311	8.5%
回答者数	3,293		2,818		2,734		3,649	

表 5-2-2 延滞が継続している最たる理由(択一) ×男女別

(単位：人)

区分	最たる理由(択一)					
	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	477	34.1%	429	32.7%	906	33.4%
本人が失業中(無職)	108	7.7%	117	8.9%	225	8.3%
本人が学生(留学を含む)	3	0.2%	8	0.6%	11	0.4%
本人が病気療養中	53	3.8%	67	5.1%	120	4.4%
本人の借入金の返済	179	12.8%	88	6.7%	267	9.8%
本人親の経済困難(本人が親へ経済援助をしております支出が多い)	96	6.9%	91	6.9%	187	6.9%
本人親の経済困難(本人の親が返還する約束をしている)	122	8.7%	154	11.7%	276	10.2%
本人の配偶者の経済困難	8	0.6%	39	3.0%	47	1.7%
家族の病気療養	36	2.6%	46	3.5%	82	3.0%
忙しい(金融機関に行けない等)	38	2.7%	25	1.9%	63	2.3%
奨学金の延滞額の増加	191	13.7%	178	13.6%	369	13.6%
奨学金は返還するものだとは思っていない	15	1.1%	7	0.5%	22	0.8%
その他	73	5.2%	63	4.8%	136	5.0%
計	1,399	100.0%	1,312	100.0%	2,711	100.0%
無回答	181		131		312	

延滞継続の理由を「本人の低所得」とする者の年収をみると、「年収 300 万円未満」が 75.8%を占める（延滞者全体：66.8%）。

表 5-2-3 「本人の低所得」×本人の年収 (単位：人)

区分	「本人の低所得」と回答した者の年収			延滞者全体の年収(再掲)		
	人数	比率	比率	人数	比率	比率
0円	110	5.8%	75.8%	286	9.5%	66.8%
1円～100万円未満	342	18.0%		445	14.8%	
100万～200万円未満	477	25.1%		597	19.9%	
200万～300万円未満	512	26.9%		677	22.6%	
300万～400万円未満	266	14.0%	22.0%	477	15.9%	29.0%
400万～500万円未満	88	4.6%		218	7.3%	
500万～600万円未満	42	2.2%		95	3.2%	
600万～700万円未満	11	0.6%		42	1.4%	
700万～800万円未満	7	0.4%		20	0.7%	
800万～900万円未満	1	0.1%		7	0.2%	
900万円以上	3	0.2%	10	0.3%		
わからない	43	2.3%	2.3%	126	4.2%	4.2%
計	1,902	100.0%	100.0%	3,000	100.0%	100.0%
無回答	3			23		

(3)延滞が始まった理由（きっかけ）と継続している理由との関係

延滞が始まった理由（きっかけ）と継続している理由との関係をみると、延滞が始まった理由がいずれの場合も、その後延滞が継続している理由は「本人の低所得」、「奨学金の延滞額の増加」の比率が高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 5-3 延滞が始まった理由（複数回答）×延滞が継続している理由（複数回答）（単位：人）

継続している理由	始まった理由		返還を忘れていた		収入が減った		支出が増えた	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	276	65.4%	221	62.8%	1,453	72.4%	784	66.4%
本人が失業中(無職)	87	20.6%	77	21.9%	541	27.0%	231	19.6%
本人が学生(留学を含む)	14	3.3%	9	2.6%	45	2.2%	25	2.1%
本人が病気療養中	38	9.0%	22	6.3%	227	11.3%	93	7.9%
本人の借入金の返済	145	34.4%	127	36.1%	650	32.4%	512	43.4%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助をしており支出が多い）	90	21.3%	61	17.3%	491	24.5%	347	29.4%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）	57	13.5%	41	11.6%	482	24.0%	246	20.8%
本人の配偶者の経済困難	29	6.9%	16	4.5%	199	9.9%	149	12.6%
家族の病気療養	47	11.1%	19	5.4%	354	17.6%	213	18.0%
忙しい（金融機関に行けない等）	204	48.3%	92	26.1%	131	6.5%	108	9.1%
奨学金の延滞額の増加	177	41.9%	160	45.5%	837	41.7%	554	46.9%
奨学金は返還するものだとは思っていない	7	1.7%	8	2.3%	23	1.1%	18	1.5%
その他	30	7.1%	26	7.4%	133	6.6%	93	7.9%
回答者数	422		352		2,007		1,181	

継続している理由	始まった理由		返還するものだとは思っていない		その他		回答者全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	320	59.1%	75	58.1%	468	58.3%	1,905	64.7%
本人が失業中(無職)	150	27.7%	30	23.3%	241	30.0%	724	24.6%
本人が学生(留学を含む)	10	1.8%	2	1.6%	21	2.6%	67	2.3%
本人が病気療養中	179	33.1%	7	5.4%	106	13.2%	339	11.5%
本人の借入金の返済	151	27.9%	37	28.7%	229	28.5%	910	30.9%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助をしており支出が多い）	160	29.6%	34	26.4%	201	25.0%	678	23.0%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）	156	28.8%	42	32.6%	208	25.9%	674	22.9%
本人の配偶者の経済困難	57	10.5%	9	7.0%	59	7.3%	247	8.4%
家族の病気療養	219	40.5%	22	17.1%	151	18.8%	480	16.3%
忙しい（金融機関に行けない等）	37	6.8%	9	7.0%	46	5.7%	263	8.9%
奨学金の延滞額の増加	229	42.3%	79	61.2%	366	45.6%	1,188	40.4%
奨学金は返還するものだとは思っていない	6	1.1%	49	38.0%	16	2.0%	61	2.1%
その他	46	8.5%	8	6.2%	138	17.2%	249	8.5%
回答者数	541		129		803		2,944	

(4)主な返還者と延滞が継続している理由との関係

主な返還者と延滞が継続している理由との関係を見ると、主な返還者が「奨学生本人」では「本人の低所得」が70.0%で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」が41.8%である。また、主な返還者が「本人の親」では「本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）」が57.3%で最も高く、次いで「本人の低所得」が42.9%である。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 5-4 主な返還者×延滞が継続している理由（複数回答）

（単位：人）

継続している理由	主な返還者		本人の親		本人の配偶者・パートナー	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	1,573	70.0%	252	42.9%	33	49.3%
本人が失業中(無職)	545	24.3%	127	21.6%	30	44.8%
本人が学生(留学を含む)	56	2.5%	10	1.7%	0	0.0%
本人が病気療養中	244	10.9%	74	12.6%	11	16.4%
本人の借入金の返済	791	35.2%	86	14.6%	21	31.3%
本人親の経済困難（本人が親への経済援助をしており支出が多い）	543	24.2%	102	17.3%	15	22.4%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）	294	13.1%	337	57.3%	12	17.9%
本人の配偶者の経済困難	191	8.5%	28	4.8%	24	35.8%
家族の病気療養	333	14.8%	121	20.6%	12	17.9%
忙しい（金融機関に行けない等）	242	10.8%	11	1.9%	3	4.5%
奨学金の延滞額の増加	939	41.8%	194	33.0%	29	43.3%
奨学金は返還するものだとは思っていない	42	1.9%	16	2.7%	1	1.5%
その他	188	8.4%	47	8.0%	5	7.5%
回答者数	2,246		588		67	

(5)本人の年収と延滞が継続している理由との関係

本人の年収と延滞が継続している理由との関係を見ると、年収「0円」では「本人が失業中（無職）」が最も高く、年収「1～400万円未満」では「本人の低所得」が最も高い。また、いずれの年収区分でも、「奨学金の延滞額の増加」が4割前後の高い比率である。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 5-5 本人の年収×延滞が継続している理由（複数回答）

（単位：人）

継続している理由	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	110	38.9%	342	77.6%	477	81.7%	512	76.2%
本人が失業中(無職)	179	63.3%	152	34.5%	135	23.1%	127	18.9%
本人が学生(留学を含む)	8	2.8%	9	2.0%	13	2.2%	12	1.8%
本人が病気療養中	70	24.7%	73	16.6%	82	14.0%	48	7.1%
本人の借入金の返済	41	14.5%	84	19.0%	173	29.6%	237	35.3%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助を しており支出が多い）	43	15.2%	90	20.4%	127	21.7%	163	24.3%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約 束をしている）	90	31.8%	110	24.9%	112	19.2%	131	19.5%
本人の配偶者の経済困難	39	13.8%	51	11.6%	49	8.4%	44	6.5%
家族の病気療養	44	15.5%	74	16.8%	104	17.8%	94	14.0%
忙しい（金融機関に行けない等）	10	3.5%	16	3.6%	41	7.0%	57	8.5%
奨学金の延滞額の増加	100	35.3%	166	37.6%	230	39.4%	267	39.7%
奨学金は返還するものだとは思っていない	9	3.2%	6	1.4%	7	1.2%	11	1.6%
その他	22	7.8%	33	7.5%	42	7.2%	52	7.7%
回答者数	283		441		584		672	

継続している理由	300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満		600万～ 700万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	266	56.1%	88	40.9%	42	45.7%	11	26.8%
本人が失業中(無職)	70	14.8%	24	11.2%	11	12.0%	1	2.4%
本人が学生(留学を含む)	12	2.5%	6	2.8%	2	2.2%	1	2.4%
本人が病気療養中	34	7.2%	8	3.7%	4	4.3%	2	4.9%
本人の借入金の返済	183	38.6%	105	48.8%	32	34.8%	13	31.7%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助を しており支出が多い）	141	29.7%	56	26.0%	18	19.6%	11	26.8%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約 束をしている）	109	23.0%	38	17.7%	13	14.1%	11	26.8%
本人の配偶者の経済困難	32	6.8%	18	8.4%	6	6.5%	2	4.9%
家族の病気療養	74	15.6%	32	14.9%	9	9.8%	8	19.5%
忙しい（金融機関に行けない等）	66	13.9%	32	14.9%	22	23.9%	7	17.1%
奨学金の延滞額の増加	212	44.7%	94	43.7%	45	48.9%	14	34.1%
奨学金は返還するものだとは思っていない	11	2.3%	6	2.8%	2	2.2%	2	4.9%
その他	39	8.2%	20	9.3%	8	8.7%	9	22.0%
回答者数	474		215		92		41	

継続している理由	700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	7	35.0%	1	16.7%	3	30.0%	43	36.4%
本人が失業中(無職)	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	21	17.8%
本人が学生(留学を含む)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.5%
本人が病気療養中	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	12.7%
本人の借入金の返済	11	55.0%	3	50.0%	1	10.0%	22	18.6%
本人親の経済困難(本人が親へ経済援助を しており支出が多い)	4	20.0%	2	33.3%	2	20.0%	20	16.9%
本人親の経済困難(本人の親が返還する約 束をしている)	4	20.0%	0	0.0%	1	10.0%	49	41.5%
本人の配偶者の経済困難	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.2%
家族の病気療養	4	20.0%	1	16.7%	3	30.0%	31	26.3%
忙しい(金融機関に行けない等)	4	20.0%	1	16.7%	2	20.0%	5	4.2%
奨学金の延滞額の増加	11	55.0%	3	50.0%	3	30.0%	37	31.4%
奨学金は返還するものだとは思っていない	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	6	5.1%
その他	3	15.0%	0	0.0%	4	40.0%	13	11.0%
回答者数	20		6		10		118	

(6)本人の職業と延滞が継続している理由との関係

本人の職業と延滞が継続している理由との関係を見ると、延滞が継続している理由は、いずれの職業区分でも「本人の低所得」の比率が高く、特に「非正規社（職）員・従業員」、「自営業/家業」で高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 5-6 本人の職業×延滞が継続している理由（複数回答）

職業 継続している理由	正社（職）員 ・従業員		非正規社（職） 員・従業員		自営業/家業	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	714	56.0%	739	80.8%	163	82.3%
本人が失業中(無職)	178	14.0%	199	21.7%	20	10.1%
本人が学生(留学を含む)	29	2.3%	16	1.7%	2	1.0%
本人が病気療養中	74	5.8%	100	10.9%	15	7.6%
本人の借入金の返済	476	37.3%	262	28.6%	66	33.3%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助を しており支出が多い）	324	25.4%	207	22.6%	47	23.7%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約 束をしている）	260	20.4%	217	23.7%	31	15.7%
本人の配偶者の経済困難	86	6.7%	82	9.0%	14	7.1%
家族の病気療養	184	14.4%	173	18.9%	30	15.2%
忙しい（金融機関に行けない等）	173	13.6%	62	6.8%	9	4.5%
奨学金の延滞額の増加	516	40.5%	384	42.0%	77	38.9%
奨学金は返還するものだとは思っていない	27	2.1%	14	1.5%	7	3.5%
その他	119	9.3%	68	7.4%	14	7.1%
回答者数	1,275		915		198	

(単位：人)

職業 継続している理由	学生(留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中 /休職中		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	10	62.5%	71	44.1%	176	52.5%	19	34.5%
本人が失業中(無職)	6	37.5%	70	43.5%	233	69.6%	13	23.6%
本人が学生(留学を含む)	13	81.3%	3	1.9%	3	0.9%	0	0.0%
本人が病気療養中	0	0.0%	19	11.8%	113	33.7%	13	23.6%
本人の借入金の返済	3	18.8%	22	13.7%	72	21.5%	2	3.6%
本人親の経済困難（本人が親へ経済援助を しており支出が多い）	5	31.3%	31	19.3%	57	17.0%	4	7.3%
本人親の経済困難（本人の親が返還する約 束をしている）	6	37.5%	55	34.2%	87	26.0%	13	23.6%
本人の配偶者の経済困難	2	12.5%	33	20.5%	27	8.1%	2	3.6%
家族の病気療養	2	12.5%	19	11.8%	63	18.8%	8	14.5%
忙しい（金融機関に行けない等）	1	6.3%	6	3.7%	10	3.0%	2	3.6%
奨学金の延滞額の増加	6	37.5%	57	35.4%	122	36.4%	22	40.0%
奨学金は返還するものだとは思っていない	0	0.0%	3	1.9%	7	2.1%	3	5.5%
その他	1	6.3%	16	9.9%	17	5.1%	13	23.6%
回答者数	16		161		335		55	

6 返還期限の猶予制度について

返還期限の猶予制度に関しては、案内資料を請求書に同封するほか、振替不能通知などの延滞督促に記載している。また、学校における奨学金に関する各種説明会での説明事項に含めている。

(1) 猶予制度の認知状況（択一）

猶予制度の認知率は、延滞者で 78.0%、無延滞者で 64.6%である。ただし、返還が始まる前までに認知していた比率は、無延滞者では合計で 37.3%であるのに対し、延滞者では 4.8%と大きな差がみられる。また、延滞者では「延滞督促を受けてから知った」比率が 53.9%で最も高い。

表 6-1

(単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	61	2.0%	321	13.5%
返還が始まる前までには知っていた	83	2.8%	568	23.8%
返還が始まってから知った	573	19.2%	599	25.1%
延滞督促を受けてから知った	1,610	53.9%	52	2.2%
知らない	658	22.0%	844	35.4%
計	2,985	100.0%	2,384	100.0%
無回答	38		4	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	61	1.9%	47	1.7%	50	1.7%
返還が始まる前までには知っていた	87	2.6%	80	2.9%	79	2.7%
返還が始まってから知った	571	17.4%	453	16.2%	476	16.3%
延滞督促を受けてから知った	1,702	51.8%	1,434	51.2%	1,364	46.7%
知らない	863	26.3%	785	28.0%	951	32.6%
計	3,284	100.0%	2,799	100.0%	2,920	100.0%

【無延滞者】

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	293	12.8%	251	10.5%	373	12.0%
返還が始まる前までには知っていた	499	21.8%	538	22.5%	648	20.8%
返還が始まってから知った	587	25.7%	651	27.2%	762	24.5%
延滞督促を受けてから知った	53	2.3%	62	2.6%	67	2.2%
知らない	855	37.4%	890	37.2%	1,259	40.5%
計	2,287	100.0%	2,392	100.0%	3,109	100.0%

(2)年齢と猶予制度の認知状況との関係

年齢と猶予制度の認知状況との関係を見ると、他の年齢に比べて20代は、返還が始まる前までに知っていた比率が高い。

表 6-2-1 年齢×猶予制度の認知状況【延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年齢	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	19	3.8%	27	1.7%	12	1.8%	3	1.1%
返還が始まる前までには知っていた	29	5.8%	35	2.2%	13	2.0%	6	2.2%
返還が始まってから知った	114	22.9%	299	19.1%	119	18.3%	41	15.2%
延滞督促を受けてから知った	267	53.7%	820	52.4%	360	55.2%	163	60.4%
知らない	68	13.7%	385	24.6%	148	22.7%	57	21.1%
計	497	100.0%	1,566	100.0%	652	100.0%	270	100.0%

表 6-2-2 年齢×猶予制度の認知状況【無延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年齢	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	195	14.6%	110	11.3%	12	20.3%	4	25.0%
返還が始まる前までには知っていた	385	28.9%	164	16.8%	15	25.4%	4	25.0%
返還が始まってから知った	305	22.9%	277	28.4%	13	22.0%	4	25.0%
延滞督促を受けてから知った	25	1.9%	27	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
知らない	422	31.7%	399	40.8%	19	32.2%	4	25.0%
計	1,332	100.0%	977	100.0%	59	100.0%	16	100.0%

(3)本人の年収と猶予制度の認知状況との関係

本人の年収と猶予制度の認知状況との関係を見ると、延滞者では年収が低いほど「延滞督促を受けてから知った」比率が高い。

表 6-3-1 本人の年収×猶予制度の認知状況【延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年収	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	2	0.7%	7	1.6%	8	1.4%	19	2.8%
返還が始まる前までには知っていた	1	0.4%	17	3.9%	17	2.9%	18	2.7%
返還が始まってから知った	37	13.1%	61	13.9%	112	19.0%	134	19.9%
延滞督促を受けてから知った	180	63.8%	260	59.2%	326	55.4%	364	54.2%
知らない	62	22.0%	94	21.4%	125	21.3%	137	20.4%
計	282	100.0%	439	100.0%	588	100.0%	672	100.0%

認知状況 \ 年収	300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満		600万～ 700万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	12	2.5%	3	1.4%	3	3.2%	2	4.8%
返還が始まる前までには知っていた	12	2.5%	7	3.3%	3	3.2%	2	4.8%
返還が始まってから知った	105	22.3%	59	27.4%	18	19.1%	10	23.8%
延滞督促を受けてから知った	232	49.3%	99	46.0%	52	55.3%	20	47.6%
知らない	110	23.4%	47	21.9%	18	19.1%	8	19.0%
計	471	100.0%	215	100.0%	94	100.0%	42	100.0%

認知状況 \ 年収	700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	1	0.8%
返還が始まる前までには知っていた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.0%
返還が始まってから知った	7	35.0%	3	42.9%	3	30.0%	20	16.1%
延滞督促を受けてから知った	6	30.0%	3	42.9%	3	30.0%	57	46.0%
知らない	7	35.0%	1	14.3%	3	30.0%	41	33.1%
計	20	100.0%	7	100.0%	10	100.0%	124	100.0%

表 6-3-2 本人の年収×猶予制度の認知状況【無延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年収	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	6	5.0%	18	11.6%	30	10.6%	88	16.1%
返還が始まる前までには知っていた	20	16.8%	22	14.2%	78	27.7%	150	27.5%
返還が始まってから知った	41	34.5%	53	34.2%	79	28.0%	104	19.1%
延滞督促を受けてから知った	3	2.5%	6	3.9%	8	2.8%	18	3.3%
知らない	49	41.2%	56	36.1%	87	30.9%	185	33.9%
計	119	100.0%	155	100.0%	282	100.0%	545	100.0%

認知状況 \ 年収	300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満		600万～ 700万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	69	14.0%	52	15.8%	16	9.1%	14	13.9%
返還が始まる前までには知っていた	124	25.1%	78	23.6%	37	21.0%	26	25.7%
返還が始まってから知った	140	28.3%	81	24.5%	37	21.0%	25	24.8%
延滞督促を受けてから知った	8	1.6%	3	0.9%	3	1.7%	1	1.0%
知らない	153	31.0%	116	35.2%	83	47.2%	35	34.7%
計	494	100.0%	330	100.0%	176	100.0%	101	100.0%

認知状況 \ 年収	700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	6	14.0%	9	34.6%	4	7.3%	8	16.7%
返還が始まる前までには知っていた	9	20.9%	6	23.1%	12	21.8%	6	12.5%
返還が始まってから知った	12	27.9%	4	15.4%	8	14.5%	12	25.0%
延滞督促を受けてから知った	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	1	2.1%
知らない	16	37.2%	6	23.1%	31	56.4%	21	43.8%
計	43	100.0%	26	100.0%	55	100.0%	48	100.0%

(4)猶予制度をどこから知ったか（複数回答）

猶予制度を知っている者（「奨学金に申込み前から知っていた」＋「返還が始まる前までには知っていた」＋「返還が始まってから知った」＋「延滞督促を受けてから知った」）に、猶予制度をどこから知ったかを質問した。

延滞者は「機構（旧日本育英会）からの通知で」、「相談センターに電話して」、「債権回収会社から」猶予制度を知った比率が無延滞者よりも高く、無延滞者は「返還のてびきを読んで」、「奨学金申請時・採用時の資料で」、「学校の説明会で」猶予制度を知った比率が延滞者よりも高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 6-4

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	146	6.6%	470	31.2%
「返還のてびき」を読んで	355	16.0%	730	48.4%
日本学生支援機構のホームページで	190	8.6%	174	11.5%
機構(旧日本育英会)からの通知で	771	34.8%	138	9.2%
相談センターに電話して	682	30.8%	26	1.7%
学校の説明会で	41	1.9%	320	21.2%
連帯保証人・保証人から	47	2.1%	13	0.9%
家族や友人・知人から（保証人以外）	86	3.9%	112	7.4%
債権回収会社から	289	13.1%	6	0.4%
テレビ・新聞などのマスメディア	45	2.0%	82	5.4%
その他	29	1.3%	13	0.9%
回答者数	2,214		1,508	
無回答	113		32	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

（単位：人）

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	126	5.3%	111	5.6%	184	10.3%	176	10.9%
「返還のてびき」を読んで	364	15.3%	313	15.9%	395	22.0%	419	25.9%
日本学生支援機構のホームページで	199	8.4%	143	7.3%	254	14.2%	197	12.2%
機構(旧日本育英会)からの通知で	874	36.8%	731	37.1%	748	41.7%	742	45.8%
相談センターに電話して	756	31.9%	622	31.6%	634	35.3%	554	34.2%
学校の説明会で	42	1.8%	29	1.5%	43	2.4%	24	1.5%
連帯保証人・保証人から	53	2.2%	50	2.5%	92	5.1%	54	3.3%
家族や友人・知人から（保証人以外）	72	3.0%	62	3.1%	72	4.0%	60	3.7%
債権回収会社から	306	12.9%	235	11.9%	331	18.4%	254	15.7%
その他	64	2.7%	32	1.6%	43	2.4%	36	2.2%
回答者数	2,373		1,969		1,795		1,619	

【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	443	31.3%	480	32.2%	761	42.3%	458	47.6%
「返還のてびき」を読んで	709	50.1%	749	50.3%	1,098	61.0%	612	63.6%
日本学生支援機構のホームページで	196	13.9%	200	13.4%	314	17.5%	147	15.3%
機構(旧日本育英会)からの通知で	144	10.2%	146	9.8%	239	13.3%	121	12.6%
相談センターに電話して	26	1.8%	31	2.1%	45	2.5%	18	1.9%
学校の説明会で	281	19.9%	230	15.4%	314	17.5%	160	16.6%
連帯保証人・保証人から	15	1.1%	24	1.6%	47	2.6%	15	1.6%
家族や友人・知人から(保証人以外)	61	4.3%	37	2.5%	88	4.9%	43	4.5%
債権回収会社から	5	0.4%	2	0.1%	16	0.9%	6	0.6%
その他	32	2.3%	66	4.4%	46	2.6%	22	2.3%
回答者数	1,415		1,489		1,799		963	

(5)猶予制度の申請状況(択一)

猶予制度を知っている者(「奨学金に申込み前から知っていた」+「返還が始まる前までには知っていた」+「返還が始まってから知った」+「延滞督促を受けてから知った」)に猶予の申請状況を質問した。

延滞者では、「現在、利用中である」が21.9%、「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」が23.5%と、無延滞者に比べて利用している比率が高いが、「申請したことがない」者も30.5%いる。

表6-5

(単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
現在、利用中である	493	21.9%	14	0.9%
申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)	238	10.6%	21	1.4%
過去に利用したことがあるが、今は利用していない	531	23.5%	190	12.5%
申請したことはあるが、承認されなかった	188	8.3%	6	0.4%
申請したことがない	688	30.5%	1,285	84.5%
その他	117	5.2%	5	0.3%
計	2,255	100.0%	1,521	100.0%
無回答	72		19	

<参考> 過年度調査の結果【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
現在、利用中である	481	20.4%	386	19.5%	321	16.6%	202	15.0%
申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)	240	10.2%	219	11.1%	286	14.8%	155	11.5%
過去に利用したことがあるが、今は利用していない	599	25.3%	480	24.3%	528	27.4%	472	35.1%
申請したことはあるが、承認されなかった	228	9.6%	177	9.0%	-	-	-	-
申請したことがない	726	30.7%	636	32.2%	735	38.1%	405	30.1%
その他	89	3.8%	77	3.9%	58	3.0%	111	8.3%
計	2,363	100.0%	1,975	100.0%	1,928	100.0%	1,345	100.0%

(6) 猶予申請をしない理由 (択一) ※延滞者にのみ質問

「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」と回答した者に、その理由を質問した。
「すでに猶予期間(通算120か月)を利用してしまったため」が32.0%で最も高い。

表 6-6-1 (「過去に利用あり」)

(単位：人)

区分	延滞者	
	人数	比率
返還期限猶予制度の基準に該当しないため	118	23.0%
延滞期間に関する証明書の取得が困難なため	30	5.8%
すでに猶予期間(通算120か月)を利用してしまったため	164	32.0%
猶予申請しないで返還する予定のため	90	17.5%
猶予申請手続きに手間がかかるため	40	7.8%
手続きがよくわからない、よく知らなかったため	42	8.2%
その他	29	5.7%
計	513	100.0%
無回答	18	

「申請したことがない」と回答した者に、その理由を質問した。
「手続きがよくわからない、よく知らなかったため」が39.1%で最も高い。

表 6-6-2 (「申請したことがない」)

(単位：人)

区分	延滞者	
	人数	比率
返還期限猶予制度の基準に該当しないため	124	21.5%
延滞期間に関する証明書の取得が困難なため	37	6.4%
猶予申請しないで返還する予定のため	119	20.7%
猶予申請手続きに手間がかかるため	51	8.9%
手続きがよくわからない、よく知らなかったため	225	39.1%
その他	20	3.5%
計	576	100.0%
無回答	112	

7 減額返還制度について

(1)減額返還制度の認知状況（択一）

減額返還制度の認知率は、延滞者で 56.5%、無延滞者で 45.9%である。ただし、返還が始まる前までに認知していた比率は、無延滞者では合計で 26.5%であるのに対し、延滞者では 3.0%と大きな差がみられる。また、延滞者では「延滞督促を受けてから知った」比率が 41.3%と無延滞者に比べて高い。

表 7-1

(単位：人)

区分	延滞者		無延滞者			
	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込む前から知っていた	50	1.7%	56.5%	214	9.3%	45.9%
返還が始まる前までには知っていた	37	1.3%		397	17.2%	
返還が始まってから知った	354	12.2%		422	18.3%	
延滞督促を受けてから知った	1,193	41.3%		26	1.1%	
知らない	1,256	43.5%	43.5%	1,250	54.1%	54.1%
計	2,890	100.0%	100.0%	2,309	100.0%	100.0%
無回答	133			79		

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度			
	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込む前から知っていた	36	1.1%	46.8%	20	0.7%	45.5%
返還が始まる前までには知っていた	44	1.4%		48	1.8%	
返還が始まってから知った	344	10.6%		221	8.1%	
延滞督促を受けてから知った	1,092	33.7%		956	34.9%	
知らない	1,722	53.2%	53.2%	1,492	54.5%	54.5%
計	3,238	100.0%	100.0%	2,737	100.0%	100.0%

【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度			
	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込む前から知っていた	175	7.9%	44.2%	178	7.8%	44.4%
返還が始まる前までには知っていた	404	18.1%		413	18.1%	
返還が始まってから知った	371	16.7%		394	17.2%	
延滞督促を受けてから知った	34	1.5%		32	1.4%	
知らない	1,242	55.8%	55.8%	1,271	55.6%	55.6%
計	2,226	100.0%	100.0%	2,288	100.0%	100.0%

(2)年齢と減額返還制度の認知状況との関係

表 7-2-1 年齢×減額返還制度の認知状況【延滞者】

(単位：人)

認知状況	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	18	3.7%	22	1.4%	8	1.3%	2	0.8%
返還が始まる前までには知っていた	19	3.9%	16	1.1%	0	0.0%	2	0.8%
返還が始まってから知った	76	15.7%	186	12.2%	69	11.0%	23	9.0%
延滞督促を受けてから知った	204	42.1%	599	39.4%	265	42.1%	125	49.0%
知らない	167	34.5%	698	45.9%	288	45.7%	103	40.4%
計	484	100.0%	1,521	100.0%	630	100.0%	255	100.0%

表 7-2-2 年齢×減額返還制度の認知状況【無延滞者】

(単位：人)

認知状況	20代以下		30代		40代		50代以上	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	133	10.4%	71	7.4%	8	14.5%	2	12.5%
返還が始まる前までには知っていた	293	22.9%	97	10.1%	6	10.9%	1	6.3%
返還が始まってから知った	221	17.3%	187	19.5%	10	18.2%	4	25.0%
延滞督促を受けてから知った	16	1.3%	10	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
知らない	617	48.2%	593	61.9%	31	56.4%	9	56.3%
計	1,280	100.0%	958	100.0%	55	100.0%	16	100.0%

(3)本人の年収と減額返還制度の認知状況との関係

表 7-3-1 本人の年収×減額返還制度の認知状況【延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年収	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	0	0.0%	6	1.4%	9	1.6%	11	1.7%
返還が始まる前までには知っていた	0	0.0%	6	1.4%	12	2.1%	10	1.5%
返還が始まってから知った	26	9.7%	41	9.5%	64	11.2%	77	11.8%
延滞督促を受けてから知った	121	45.1%	203	47.0%	242	42.5%	262	40.2%
知らない	121	45.1%	176	40.7%	242	42.5%	292	44.8%
計	268	100.0%	432	100.0%	569	100.0%	652	100.0%

認知状況 \ 年収	300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満		600万～ 700万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	13	2.8%	3	1.4%	3	3.2%	4	4.9%
返還が始まる前までには知っていた	2	0.4%	3	1.4%	1	1.1%	1	2.4%
返還が始まってから知った	66	14.4%	39	18.5%	16	16.8%	9	22.0%
延滞督促を受けてから知った	187	40.7%	83	39.3%	31	32.6%	16	39.0%
知らない	191	41.6%	83	39.3%	44	46.3%	13	31.7%
計	459	100.0%	211	100.0%	95	100.0%	41	100.0%

認知状況 \ 年収	700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	0	0.0%	0	0.0%	2	22.2%	0	0.0%
返還が始まる前までには知っていた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
返還が始まってから知った	4	20.0%	0	0.0%	1	11.1%	9	8.0%
延滞督促を受けてから知った	5	25.0%	4	57.1%	2	22.2%	32	28.3%
知らない	11	55.0%	3	42.9%	4	44.4%	71	62.8%
計	20	100.0%	7	100.0%	9	100.0%	113	100.0%

表 7-3-2 本人の年収×減額返還制度の認知状況【無延滞者】

(単位：人)

認知状況 \ 年収	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	4	3.4%	14	9.3%	17	6.3%	55	10.4%
返還が始まる前までには知っていた	16	13.8%	17	11.3%	53	19.5%	111	21.1%
返還が始まってから知った	31	26.7%	35	23.3%	59	21.7%	77	14.6%
延滞督促を受けてから知った	1	0.9%	3	2.0%	7	2.6%	10	1.9%
知らない	64	55.2%	81	54.0%	136	50.0%	274	52.0%
計	116	100.0%	150	100.0%	272	100.0%	527	100.0%

認知状況 \ 年収	300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満		600万～ 700万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	45	9.5%	43	13.3%	9	5.3%	12	12.1%
返還が始まる前までには知っていた	90	18.9%	51	15.8%	18	10.6%	13	13.1%
返還が始まってから知った	94	19.7%	56	17.3%	24	14.1%	22	22.2%
延滞督促を受けてから知った	3	0.6%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%
知らない	244	51.3%	173	53.6%	118	69.4%	52	52.5%
計	476	100.0%	323	100.0%	170	100.0%	99	100.0%

認知状況 \ 年収	700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	2	4.9%	4	15.4%	4	7.5%	4	8.5%
返還が始まる前までには知っていた	8	19.5%	7	26.9%	8	15.1%	5	10.6%
返還が始まってから知った	5	12.2%	3	11.5%	5	9.4%	9	19.1%
延滞督促を受けてから知った	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
知らない	26	63.4%	12	46.2%	36	67.9%	29	61.7%
計	41	100.0%	26	100.0%	53	100.0%	47	100.0%

(4)減額返還制度をどこから知ったか（複数回答）

減額返還制度を知っている者（「奨学金に申込み前から知っていた」＋「返還が始まる前までには知っていた」＋「返還が始まってから知った」＋「延滞督促を受けてから知った」）に、減額返還制度をどこから知ったかを質問した。

延滞者は「機構（旧日本育英会）からの通知で」、「相談センターに電話して」減額返還制度を知った比率が無延滞者よりも高く、無延滞者は「返還のてびきを読んで」、「奨学金申請時・採用時の資料で」、「学校の説明会で」減額返還制度を知った比率が延滞者よりも高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 7-4

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	77	4.9%	310	29.9%
「返還のてびき」を読んで	180	11.5%	509	49.0%
日本学生支援機構のホームページで	149	9.5%	138	13.3%
機構(旧日本育英会)からの通知で	578	36.9%	105	10.1%
相談センターに電話して	527	33.6%	13	1.3%
学校の説明会で	27	1.7%	233	22.4%
連帯保証人・保証人から	28	1.8%	6	0.6%
家族や友人・知人から（保証人以外）	38	2.4%	50	4.8%
債権回収会社から	206	13.1%	3	0.3%
テレビ・新聞などのマスメディア	32	2.0%	53	5.1%
その他	15	1.0%	9	0.9%
回答者数	1,568		1,038	
無回答	66		21	

(5)減額返還制度の利用状況（択一）

減額返還制度を知っている者（「奨学金に申込み前から知っていた」＋「返還が始まる前までには知っていた」＋「返還が始まってから知った」＋「延滞督促を受けてから知った」）に、減額返還制度の利用状況を質問した。

減額返還制度の利用率は、延滞者は27.1%であるのに対し、無延滞者では3.8%である。

表 7-5

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
利用したことがある	425	27.1%	40	3.8%
利用したことがない	1,141	72.9%	1,011	96.2%
計	1,566	100.0%	1,051	100.0%
無回答	68		8	

8 無延滞者の状況※無延滞者にのみ質問

(1)延滞経験の有無（択一）

調査時点で無延滞の者に、これまでに延滞したことがあるか質問した。

「延滞したことがある」者は19.6%である。

表 8-1 (単位：人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
延滞したことがない	1,737	73.1%
延滞したことがある	466	19.6%
わからない	172	7.2%
計	2,375	100.0%
無回答	13	

<参考> 過年度調査の結果【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
延滞したことがない	1,714	75.0%	1,714	71.7%	2,279	73.4%	1,568	72.5%
延滞したことがある	438	19.2%	528	22.1%	627	20.2%	458	21.2%
わからない	133	5.8%	148	6.2%	201	6.5%	137	6.3%
計	2,285	100.0%	2,390	100.0%	3,107	100.0%	2,163	100.0%

(2)延滞になったことをどこから知ったか（複数回答）

「延滞したことがある」と回答した者に、延滞になったことをどこから知ったかを質問した。

「機構（旧日本育英会）からの振替不能（延滞）通知」が61.3%で最も高く、次いで「口座残高を確認して」29.0%、「機構（旧日本育英会）からの電話」26.2%である。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 8-2 (単位：人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
機構(旧日本育英会)からの振替不能(延滞)通知	283	61.3%
機構(旧日本育英会)からの電話	121	26.2%
連帯保証人・保証人からの連絡	29	6.3%
口座残高を確認して	134	29.0%
親・家族等からの連絡	40	8.7%
債権回収会社からの連絡	48	10.4%
その他	9	1.9%
回答者数	462	
無回答	4	

(3)延滞の解消方法（複数回答）

「延滞したことがある」と回答した者に、延滞を解消した方法を質問した。

「本人が延滞額を支払った（口座振替を含む）」の比率が 85.1%で最も高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は 100%を超える。

表 8-3

(単位：人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
本人が延滞額を支払った(口座振替を含む)	393	85.1%
本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)	62	13.4%
返還期限猶予が承認された	27	5.8%
その他	8	1.7%
回答者数	462	
無回答	4	

<参考> 過年度調査の結果【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人が延滞額を支払った(口座振替を含む)	362	83.0%	424	80.9%	500	82.1%	359	82.7%
本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)	60	13.8%	77	14.7%	95	15.6%	74	17.1%
返還期限猶予が承認された	20	4.6%	30	5.7%	53	8.7%	34	7.8%
その他	8	1.8%	10	1.9%	14	2.3%	8	1.8%
回答者数	436		524		609		434	

(4)繰上返還制度の認知状況（択一）

返還期日がきていない将来の返還分の一部または全額を繰り上げて返還することができる繰上返還制度を「知っている」と回答した者（「よく知っている」＋「だいたい知っている」の合計）は、71.0%である。

表 8-4

(単位：人)

区分	無延滞者		
	人数	比率	
よく知っている	445	18.7%	71.0%
だいたい知っている	1,248	52.4%	
あまり知らない	469	19.7%	29.0%
知らない	221	9.3%	
計	2,383	100.0%	100.0%
無回答	5		

(5)スカラネット・パーソナルの認知状況（択一）

インターネット上で自分自身の奨学金に関する情報や登録されている内容を閲覧したり、転居・改姓・勤務先変更等の届出ができるスカラネット・パーソナルを「知っている」と回答した者（「よく知っている」＋「だいたい知っている」）は、47.0%である。

表 8-5 (単位：人)

区分	無延滞者		
	人数	比率	
よく知っている	333	14.0%	47.0%
だいたい知っている	785	33.0%	
あまり知らない	699	29.4%	53.0%
知らない	560	23.6%	
計	2,377	100.0%	100.0%
無回答	11		

<参考> 過年度調査の結果【無延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
よく知っている	294	12.9%	331	14.2%	279	9.1%	163	7.6%
だいたい知っている	671	29.5%	635	27.3%	736	24.1%	387	18.1%
あまり知らない	655	28.8%	565	24.3%	821	26.8%	524	24.5%
知らない	653	28.7%	796	34.2%	1,223	40.0%	1,067	49.8%
計	2,273	100.0%	2,327	100.0%	3,059	100.0%	2,141	100.0%

(6)所得連動返還方式を利用したいと思うか（択一）

収入額に応じて、収入が低い間は少ない金額を、収入が高くなったら多い金額を返還していく「所得連動返還方式」を利用できるとしたら利用したいと回答した者は、11.4%である。過半数の者が「よくわからない」と回答した。

表 8-6 (単位：人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
利用したい	268	11.4%
利用したくない（定額が良い）	795	33.8%
よく分からない	1,288	54.8%
計	2,351	100.0%
無回答	37	

9 日本学生支援機構からの情報提供について

(1)日本学生支援機構からの送付文書類の閲覧状況（択一）

日本学生支援機構から送付した文書類を「見る」と回答した者（「必ず見る」＋「だいたい見る」）は、延滞者では86.3%、無延滞者では92.3%である。

表 9-1 (単位：人)

区分	延滞者			無延滞者		
	人数	比率		人数	比率	
必ず見る	1,459	48.7%	86.3%	1,500	63.1%	92.3%
だいたい見る	1,126	37.6%		693	29.2%	
あまり見ない	291	9.7%	11.3%	141	5.9%	6.7%
見ない	47	1.6%		18	0.8%	
届いていない	26	0.9%	0.9%	18	0.8%	0.8%
その他	45	1.5%	1.5%	7	0.3%	0.3%
計	2,994	100.0%	100.0%	2,377	100.0%	100.0%
無回答	29			11		

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
必ず見る	1,266	38.6%	894	32.0%	1,024	35.1%	1,701	45.8%
だいたい見る	1,366	41.6%	1,178	42.2%	1,242	42.5%	1,441	38.8%
あまり見ない	483	14.7%	506	18.1%	455	15.6%	413	11.1%
見ない	63	1.9%	93	3.3%	79	2.7%	68	1.8%
届いていない	55	1.7%	76	2.7%	72	2.5%	48	1.3%
その他	47	1.4%	44	1.6%	47	1.6%	41	1.1%
計	3,280	100.0%	2,791	100.0%	2,919	100.0%	3,712	100.0%

【無延滞者】

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
必ず見る	1,187	51.8%	1,021	42.6%	1,356	43.6%	1,094	50.6%
だいたい見る	836	36.5%	952	39.7%	1,286	41.3%	796	36.8%
あまり見ない	201	8.8%	306	12.8%	358	11.5%	209	9.7%
見ない	32	1.4%	57	2.4%	66	2.1%	42	1.9%
届いていない	31	1.4%	56	2.3%	37	1.2%	16	0.7%
その他	5	0.2%	4	0.2%	8	0.3%	6	0.3%
計	2,292	100.0%	2,396	100.0%	3,111	100.0%	2,163	100.0%

(2)日本学生支援機構のホームページの閲覧状況（択一）

機構ホームページの閲覧状況について、延滞者の半数以上が「見たことはない」と回答し、無延滞者では「見たことがある」（「およそ1か月に1回以上見る」＋「年に数回見る」＋「過去に見たことがある」）と回答した者が61.6%である。

表 9-2 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
およそ1か月に1回以上見る	17	0.6%	14	0.6%
年に数回見る	204	6.8%	274	11.5%
過去に見たことがある	913	30.5%	1,182	49.6%
見たことはない	1,573	52.6%	870	36.5%
見るができない	259	8.7%	36	1.5%
その他	25	0.8%	9	0.4%
計	2,991	100.0%	2,385	100.0%
無回答	32		3	

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
およそ1か月に1回以上見る	14	0.4%	10	0.4%	26	0.9%	23	0.6%
年に数回見る	173	5.3%	155	5.5%	149	5.1%	154	4.2%
過去に見たことがある	786	23.9%	650	23.1%	681	23.4%	736	20.0%
見たことはない	1,912	58.2%	1,664	59.3%	1,745	60.0%	2,128	57.8%
見るができない	385	11.7%	310	11.0%	289	9.9%	581	15.8%
その他	15	0.5%	19	0.7%	20	0.7%	58	1.6%
計	3,285	100.0%	2,808	100.0%	2,910	100.0%	3,680	100.0%

【無延滞者】

	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
およそ1か月に1回以上見る	6	0.3%	9	0.4%	17	0.5%	7	0.3%
年に数回見る	246	10.7%	237	9.9%	266	8.6%	139	6.4%
過去に見たことがある	864	37.7%	929	38.7%	1,170	37.6%	723	33.4%
見たことはない	1,120	48.9%	1,191	49.6%	1,575	50.6%	1,235	57.1%
見るができない	55	2.4%	28	1.2%	74	2.4%	48	2.2%
その他	1	0.0%	7	0.3%	8	0.3%	11	0.5%
計	2,292	100.0%	2,401	100.0%	3,110	100.0%	2,163	100.0%

(3)日本学生支援機構からの情報提供について（択一）

日本学生支援機構からの情報提供について、十分だと感じている者（「そう思う」＋「とてもそう思う」）は、延滞者では29.6%、無延滞者では42.0%である。

表 9-3

(単位：人)

区分	延滞者			無延滞者		
	人数	比率		人数	比率	
とてもそう思う	127	4.3%	29.6%	117	4.9%	42.0%
そう思う	751	25.3%		884	37.1%	
どちらともいえない	1,249	42.1%	42.1%	1,004	42.1%	42.1%
そう思わない	537	18.1%	28.3%	303	12.7%	15.9%
まったくそう思わない	302	10.2%		77	3.2%	
計	2,966	100.0%	100.0%	2,385	100.0%	100.0%
無回答	57			3		

<参考> 過年度調査の結果

【延滞者】

(単位：人)

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	84	2.6%	112	4.1%	144	5.1%	171	4.8%
そう思う	643	19.6%	607	22.2%	577	20.4%	948	26.7%
どちらともいえない	1,604	48.9%	1,173	42.9%	1,242	43.8%	1,443	40.7%
そう思わない	616	18.8%	542	19.8%	550	19.4%	696	19.6%
まったくそう思わない	331	10.1%	298	10.9%	322	11.4%	288	8.1%
計	3,278	100.0%	2,732	100.0%	2,835	100.0%	3,546	100.0%

【無延滞者】

区分	平成29年度		平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	87	3.8%	120	5.0%	100	3.2%	95	4.4%
そう思う	855	37.3%	823	34.6%	1,012	32.7%	763	35.4%
どちらともいえない	1,010	44.1%	1,050	44.1%	1,351	43.7%	946	43.9%
そう思わない	263	11.5%	292	12.3%	469	15.2%	292	13.5%
まったくそう思わない	75	3.3%	96	4.0%	163	5.3%	61	2.8%
計	2,290	100.0%	2,381	100.0%	3,095	100.0%	2,157	100.0%

10 日本学生支援機構の奨学金に対する意識

(1)奨学金がどのように役に立ったか（複数回答）

奨学金がどのように役に立ったかについて、延滞者では「奨学金のおかげで進学可能となった」が62.7%で最も高く、無延滞者では「家計の負担を軽減できた」が62.1%で最も高い。

※比率は回答者数に対する比率。複数回答のため、合計は100%を超える。

表 10-1-1 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金のおかげで進学可能となった	1,846	62.7%	1,186	50.0%
修学費に充てる金額を多くできた	399	13.6%	499	21.0%
家計の負担を軽減できた	1,265	43.0%	1,474	62.1%
アルバイトの時間を減らすことができた	247	8.4%	405	17.1%
その他	37	1.3%	25	1.1%
役に立たなかった・わからない	130	4.4%	14	0.6%
回答者数	2,942		2,374	
無回答	81		14	

回答者のうち、2つ以上の効果を感じている者は、延滞者では25.8%、無延滞者では37.6%である。

表 10-1-2 (単位：人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
いずれか1つの効果を感じている人	2,052	69.7%	1,467	61.8%
2つ以上の効果を感じている人	760	25.8%	893	37.6%
いずれの効果も感じていない人	130	4.4%	14	0.6%
計	2,942	100.0%	2,374	100.0%

(2)奨学金の返還は負担になっているか（択一）

「現在、奨学金の返還が負担になっている」と感じている者（「とてもそう思う」＋「そう思う」の合計）は、延滞者では86.4%、無延滞者では51.4%である。

表 10-2 (単位：人)

区分	延滞者			無延滞者		
	人数	比率		人数	比率	
とてもそう思う	1,650	55.1%	86.4%	518	21.7%	51.4%
そう思う	936	31.3%		710	29.7%	
どちらともいえない	338	11.3%	11.3%	557	23.3%	23.3%
そう思わない	63	2.1%	2.3%	452	18.9%	25.2%
まったくそう思わない	7	0.2%		150	6.3%	
計	2,994	100.0%	100.0%	2,387	100.0%	100.0%
無回答	29			1		

(3)延滞への対応はきびしいと感じるか（択一）※延滞者にのみ質問

「延滞への対応がきびしい」と感じている者（「とてもそう思う」＋「そう思う」の合計）は、延滞者では58.5%である。

表 10-3 (単位：人)

区分	延滞者		
	人数	比率	
とてもそう思う	990	33.2%	58.5%
そう思う	754	25.3%	
どちらともいえない	886	29.7%	29.7%
そう思わない	311	10.4%	11.7%
まったくそう思わない	39	1.3%	
計	2,980	100.0%	100.0%
無回答	43		

(4)奨学金返還について（択一）※無延滞者にのみ質問

奨学金は「借りたものなので必ず返さなければならない」と思っている者（「とてもそう思う」＋「そう思う」の合計）は、93.9%である。

表 10-4 (単位：人)

区分	借りたものなので必ず返さなければならない		
	人数	比率	
とてもそう思う	1,342	56.4%	93.9%
そう思う	893	37.5%	
どちらともいえない	116	4.9%	4.9%
そう思わない	17	0.7%	1.3%
まったくそう思わない	13	0.5%	
計	2,381	100.0%	100.0%
無回答	7		

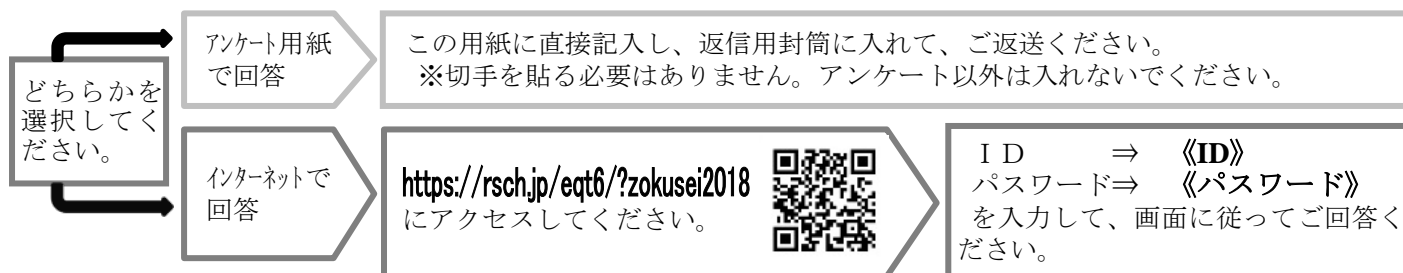
奨学金の返還に関するアンケートへのご協力のお願い

日本学生支援機構では、返還者の状況を把握するため、返還中の方の中から一定の条件で無作為に抽出した方を対象にアンケート調査を行っています。お忙しいところ恐縮ですが、本調査へのご協力をお願いいたします。なお、無作為抽出のため、以前ご回答いただいた方にも再度アンケートが届く場合がございますが、何とぞご協力のほどお願い申し上げます。ご回答いただいた内容は、貴方の返還状況等とあわせて統計的に処理し、集計、分析に使用させていただきます。また、調査研究のため、研究機関等に提供する場合があります。いずれの場合も、個人の名前や個人を特定できるような内容が外部にもれることはありません。ありのままをご回答いただきますようお願いいたします。

平成 31 年 1 月 独立行政法人日本学生支援機構奨学事業戦略部

【回答方法】

※回答は、この用紙に直接記入の上、同封の返信用封筒に入れてご返送いただくか、またはインターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）からのご回答をお願いします。



○回答期限は 平成 31 年 2 月 4 日(月曜日)です。

※設問の中で「奨学生本人」または「本人」は、奨学金の貸与を受けられた方(宛名に印字された方)のことです。

1 このアンケートに回答された方はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 本人の親 |
| (3) 本人の配偶者(夫または妻)、パートナー | (4) その他() |

2 奨学生本人の状況についてお聞きます。本人の就労状況について、最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|---------------------------------------|
| (1) 正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員 | (2) その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等) |
| (3) 自営業/家業 | (4) 学生(留学を含む) |
| (5) 専業主婦(夫) | (6) 無職・失業中/休職中 |
| (7) その他() | |

3 奨学生本人の収入についてお聞きます。この 1 年間の収入はどれくらいでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。※ボーナスや臨時収入も含め、税込みでご回答ください。

- | | | |
|-------------------|------------------|------------------|
| (1) 0 円 | (2) 100 万円未満 | (3) 100～200 万円未満 |
| (4) 200～300 万円未満 | (5) 300～400 万円未満 | (6) 400～500 万円未満 |
| (7) 500～600 万円未満 | (8) 600～700 万円未満 | (9) 700～800 万円未満 |
| (10) 800～900 万円未満 | (11) 900 万円以上 | (12) わからない |

4 奨学生本人はどなたと一緒に暮らして(生計を共にして)いますか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | | |
|-------------|----------------------|-----------|
| (1) 奨学生本人の親 | (2) 配偶者(夫または妻)、パートナー | (3) 子ども |
| (4) その他() | (5) 一人暮らし | (6) わからない |

4-2 「配偶者(夫または妻)、パートナー」と同居している方にお聞きます。その方は、JASSO 奨学金の貸与を受けていましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| (1) 配偶者は JASSO 奨学金の貸与を受けていた | (2) 配偶者は JASSO 奨学金の貸与を受けていない |
| (3) わからない | |

5 奨学生本人は奨学金に返還義務があることをいつ知りましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------------|-----------------|--------------|
| (1) 申込手続きを行う前 | (2) 申込手続中 | (3) 貸与中 |
| (4) 貸与終了時 | (5) 貸与終了後～返還開始前 | (6) 返還開始～督促前 |
| (7) 延滞督促を受けてから | (8) その他() | (9) わからない |

6 大学・短期大学・専修学校専門課程で奨学金の貸与を受けた方にお聞きます。奨学金の申請をいつの段階で決めましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| (1) 高校入学より前 | (2) 高校 1 年生の時点 |
| (3) 高校 2 年生の時点 | (4) 高校 3 年生の時点 |
| (5) 高校卒業後(浪人中、進学してから) | (6) わからない |

7 奨学金の申請を勧めたのはどなたですか。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| (1) 奨学生本人が自分で決めた(勧めた人は特にいない) | (2) 親(または祖父母等の家族、親戚)が勧めた |
| (3) 学校の先生や職員が勧めた | (4) 友人・知人が勧めた |
| (5) 「(2)～(4)」以外の方が勧めた() | (6) わからない |

8 奨学金を申請する時に実際に申込手続き(書類作成や入力作業等)をしたのはどなたですか。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 親(または祖父母等の家族、親戚) |
| (3) 本人と親等 | (4) その他() |
| (5) 覚えていない・わからない | |

9 主に奨学金を返還する方(お金を払う方)はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。
※現在の状況をお答えください。

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 本人の親 |
| (3) 本人の配偶者(夫または妻)、パートナー | (4) その他() |

10 問 9 でお答えいただいた「主に奨学金を返還する方」は、そのための資金をどのように得ていますか。主なものの番号に一つだけ○をつけてください。※現在の状況をお答えください。

- | | | |
|-----------------|------------|-----------------|
| (1) 給与など働いて得る収入 | (2) 預貯金 | (3) 年金 |
| (4) 公的な補助金・給付金 | (5) その他() | (6) 現在は返還できていない |

11 奨学生本人が病気や経済困難(年収 300 万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延期する返還期限猶予という制度がありますが、この制度の存在をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 奨学金を申し込む前から知っていた | (2) 返還が始まる前までには知っていた |
| (3) 返還が始まってから知った | (4) 延滞督促を受けてから知った |
| (5) 知らない →問 13 へ | |

《対象者通し番号》

12 問 11 で「(1) ～(4)」と回答した方にお聞きます。「(5)知らない」と回答した方は問 13 へ

(ア) 返還期限猶予制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| (1) 奨学金申請時・採用時の資料で | (2) 「返還のてびき」を読んで |
| (3) 日本学生支援機構のホームページで | (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で |
| (5) 返還相談センターに電話して | (6) 学校の説明会で |
| (7) 連帯保証人・保証人から | (8) 家族や友人・知人から(連帯保証人・保証人以外) |
| (9) 債権回収会社から | (10) テレビ・新聞などのマスメディア |
| (11) その他() | |

(イ) 返還期限猶予制度(在学猶予を除く)の利用についてお聞きます。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------------|
| (1) 現在、利用中である | (2) 申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む) |
| (3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない | (4) 申請したことはあるが、承認されなかった |
| (5) 申請したことがない | (6) その他() |

(ウ) 問イで「(3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない」または「(5) 申請したことがない」と回答した方にお聞きます。利用しない理由について最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| (1) 返還期限猶予制度の基準に該当しないため | (2) 延滞期間に関する証明書の取得が困難なため |
| (3) すでに猶予期間(通算 120 か月)を利用してしまったため | (4) 猶予申請しないで返還する予定のため |
| (5) 猶予申請手続きに手間がかかるため | (6) 手続きがよくわからない、よく知らなかったため |
| (7) その他() | |

13 奨学生本人が病気や経済困難(年収 325 万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延長し返還の月額を減額する減額返還制度がありますが、この制度をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 奨学金を申し込む前から知っていた | (2) 返還が始まる前までには知っていた |
| (3) 返還が始まってから知った | (4) 延滞督促を受けてから知った |
| (5) 知らない →問 15 へ | |

14 問 13 で「(1) ～(4)」と回答した方にお聞きます。「(5)知らない」と回答した方は問 15 へ

(ア) 減額返還制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| (1) 奨学金申請時・採用時の資料で | (2) 「返還のてびき」を読んで |
| (3) 日本学生支援機構のホームページで | (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で |
| (5) 返還相談センターに電話して | (6) 学校の説明会で |
| (7) 連帯保証人・保証人から | (8) 家族や友人・知人から(連帯保証人・保証人以外) |
| (9) 債権回収会社から | (10) テレビ・新聞などのマスメディア |
| (11) その他() | |

(イ) 減額返還制度の利用についてお聞きます。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 利用したことがある | (2) 利用したことがない |
|---------------|---------------|

15 日本学生支援機構からお送りしている郵便物(請求書や通知・はがき)についてお聞きます。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| (1) 必ず見る | (2) だいたい見る | (3) あまり見ない |
| (4) 見ない | (5) 届いていない | (6) その他() |

16 日本学生支援機構のホームページについてお聞きます。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|------------------------|------------|----------------|
| (1) おおよそ 1 か月に 1 回以上見る | (2) 年に数回見る | (3) 過去に見たことがある |
| (4) 見たことはない | (5) 見るできない | (6) その他() |

17 日本学生支援機構の奨学金に対してどのように感じていますか。それぞれあてはまる番号に一つずつ○をつけてください。

(ア) 日本学生支援機構からの情報提供は十分である

- (1) とてもそう思う (2) そう思う (3) どちらともいえない (4) そう思わない (5) 全くそう思わない

(イ) 現在、奨学金の返還が負担になっている

- (1) とてもそう思う (2) そう思う (3) どちらともいえない (4) そう思わない (5) 全くそう思わない

(ウ) 延滞への対応がきびしい

- (1) とてもそう思う (2) そう思う (3) どちらともいえない (4) そう思わない (5) 全くそう思わない

18 延滞が始まった理由(きっかけ)についてお聞きます。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど) (2) 返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス
 (3) 家計の収入が減った (4) 家計の支出が増えた
 (5) 入院、事故、災害等にあつたため (6) 奨学金は返還するものだとは思っていなかった
 (7) その他()

18-2 上記で○をつけた理由の中で最も大きな理由の番号をひとつご記入ください。⇒

19 延滞が継続した理由についてお聞きます。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 本人の低所得 (2) 本人が失業中(無職)
 (3) 本人が学生(留学を含む) (4) 本人が病気療養中
 (5) 本人の借入金の返済 (6) 本人の親の経済困難(本人が親へ経済援助をしており支出が多い)
 (7) 本人の親の経済困難(本人の親が返還する約束をしている) (8) 本人の配偶者の経済困難
 (9) 家族の病気療養 (10) 忙しい(金融機関に行けない等)
 (11) 奨学金の延滞額の増加 (12) 奨学金は返還するものだとは思っていない
 (13) その他()

19-2 上記で○をつけた理由の中で最も大きな理由の番号をひとつご記入ください。⇒

20 日本学生支援機構の奨学金は主にどのように役立ちましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金のおかげで進学が可能となった (2) 修学費に充てる金額を多くできた
 (3) 家計の負担を軽減できた (4) アルバイトの時間を減らすことができた
 (5) その他()

21 日本学生支援機構の奨学金制度について、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

この回答用紙および同封の返信用封筒は、個別のご相談にはご利用いただけません。

○ご相談、お問合せは「奨学金返還相談センター」までお願いします。

電話 : 0570-666-301(ナビダイヤル・全国共通)

月曜～金曜・8時30分～20時00分(祝日・年末年始を除く)

ナビダイヤルをご利用できない場合は 03-6743-6100 へおかけください。

日本学生支援機構ホームページ << <https://www.jasso.go.jp/> >>

ご協力ありがとうございました。

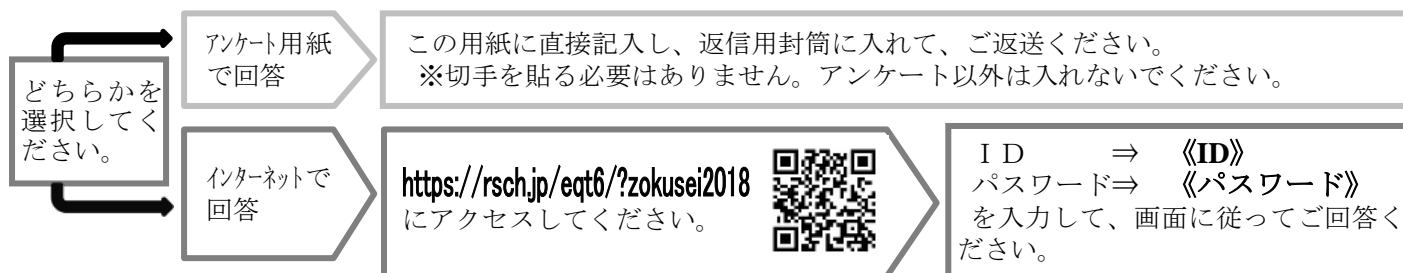
奨学金の返還に関するアンケートへのご協力のお願い

日本学生支援機構では、返還者の状況を把握するため、返還中の方の中から一定の条件で無作為に抽出した方を対象にアンケート調査を行っています。お忙しいところ恐縮ですが、本調査へのご協力をお願いいたします。なお、無作為抽出のため、以前ご回答いただいた方にも再度アンケートが届く場合がございますが、何とぞご協力のほどお願い申し上げます。ご回答いただいた内容は、貴方の返還状況等とあわせて統計的に処理し、集計、分析に使用させていただきます。また、調査研究のため、研究機関等に提供する場合があります。いずれの場合も、個人の名前や個人を特定できるような内容が外部にもれることはありません。ありのままをご回答いただきますようお願いいたします。

平成 31 年 1 月 独立行政法人日本学生支援機構奨学事業戦略部

【回答方法】

※回答は、この用紙に直接記入の上、同封の返信用封筒に入れてご返送いただくか、またはインターネット（パソコン、スマートフォン、タブレット）からのご回答をお願いします。



○回答期限は 平成 31 年 2 月 4 日(月曜日)です。

※設問の中で「奨学生本人」または「本人」は、奨学金の貸与を受けられた方(宛名に印字された方)のことです。

1 このアンケートに回答された方はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 本人の親 |
| (3) 本人の配偶者(夫または妻)、パートナー | (4) その他() |

2 奨学生本人の状況についてお聞きます。本人の就労状況について、最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------------------|
| (1) 正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員 | (2) その他の社(職)員・従業員
(パート・アルバイト、派遣、契約社員等) |
| (3) 自営業/家業 | (4) 学生(留学を含む) |
| (5) 専業主婦(夫) | (6) 無職・失業中/休職中 |
| (7) その他() | |

3 奨学生本人の収入についてお聞きます。この 1 年間の収入はどれくらいでしたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。※ボーナスや臨時収入も含め、税込みでご回答ください。

- | | | |
|-------------------|------------------|------------------|
| (1) 0 円 | (2) 100 万円未満 | (3) 100～200 万円未満 |
| (4) 200～300 万円未満 | (5) 300～400 万円未満 | (6) 400～500 万円未満 |
| (7) 500～600 万円未満 | (8) 600～700 万円未満 | (9) 700～800 万円未満 |
| (10) 800～900 万円未満 | (11) 900 万円以上 | (12) わからない |

4 奨学生本人はどなたと一緒に暮らして(生計を共にして)いますか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | | |
|-------------|----------------------|-----------|
| (1) 奨学生本人の親 | (2) 配偶者(夫または妻)、パートナー | (3) 子ども |
| (4) その他() | (5) 一人暮らし | (6) わからない |

4-2 「配偶者(夫または妻)、パートナー」と同居している方にお聞きます。その方は、JASSO 奨学金の貸与を受けていましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| (1) 配偶者は JASSO 奨学金の貸与を受けていた | (2) 配偶者は JASSO 奨学金の貸与を受けていない |
| (3) わからない | |

5 奨学生本人は奨学金に返還義務があることをいつ知りましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------------|-----------------|--------------|
| (1) 申込手続きを行う前 | (2) 申込手続中 | (3) 貸与中 |
| (4) 貸与終了時 | (5) 貸与終了後～返還開始前 | (6) 返還開始～督促前 |
| (7) 延滞督促を受けてから | (8) その他() | (9) わからない |

6 大学・短期大学・専修学校専門課程で奨学金の貸与を受けた方にお聞きます。奨学金の申請をいつの段階で決めましたか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| (1) 高校入学より前 | (2) 高校 1 年生の時点 |
| (3) 高校 2 年生の時点 | (4) 高校 3 年生の時点 |
| (5) 高校卒業後(浪人中、進学してから) | (6) わからない |

7 奨学金の申請を勧めたのはどなたですか。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| (1) 奨学生本人が自分で決めた(勧めた人は特にいない) | (2) 親(または祖父母等の家族、親戚)が勧めた |
| (3) 学校の先生や職員が勧めた | (4) 友人・知人が勧めた |
| (5) 「(2)～(4)」以外の方が勧めた() | (6) わからない |

8 奨学金を申請する時に実際に申込手続き(書類作成や入力作業等)をしたのはどなたですか。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 親(または祖父母等の家族、親戚) |
| (3) 本人と親等 | (4) その他() |
| (5) 覚えていない・わからない | |

9 主に奨学金を返還する方(お金を払う方)はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。※現在の状況をお答えください。

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 奨学生本人 | (2) 本人の親 |
| (3) 本人の配偶者(夫または妻)、パートナー | (4) その他() |

10 問 9 でお答えいただいた「主に奨学金を返還する方」は、そのための資金をどのように得ていますか。主なものの番号に一つだけ○をつけてください。※現在の状況をお答えください。

- | | | |
|-----------------|------------|--------|
| (1) 給与など働いて得る収入 | (2) 預貯金 | (3) 年金 |
| (4) 公的な補助金・給付金 | (5) その他() | |

11 奨学生本人が病気や経済困難(年収 300 万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延期する返還期限猶予という制度がありますが、この制度の存在をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 奨学金を申し込む前から知っていた | (2) 返還が始まる前までには知っていた |
| (3) 返還が始まってから知った | (4) 延滞督促を受けてから知った |
| (5) 知らない →問 13 へ | |

《対象者通し番号》

12 問 11 で「(1) ～(4)」と回答した方にお聞きます。「(5)知らない」と回答した方は問 13 へ)

(ア) 返還期限猶予制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| (1) 奨学金申請時・採用時の資料で | (2) 「返還のてびき」を読んで |
| (3) 日本学生支援機構のホームページで | (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で |
| (5) 返還相談センターに電話して | (6) 学校の説明会で |
| (7) 連帯保証人・保証人から | (8) 家族や友人・知人から(連帯保証人・保証人以外) |
| (9) 債権回収会社から | (10) テレビ・新聞などのマスメディア |
| (11) その他() | |

(イ) 返還期限猶予制度(在学猶予を除く)の利用についてお聞きます。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------------|
| (1) 現在、利用中である | (2) 申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む) |
| (3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない | (4) 申請したことはあるが、承認されなかった |
| (5) 申請したことがない | (6) その他() |

13 奨学生本人が病気や経済困難(年収 325 万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延長し返還の月額を減額する減額返還制度がありますが、この制度をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 奨学金を申し込む前から知っていた | (2) 返還が始まる前までには知っていた |
| (3) 返還が始まってから知った | (4) 延滞督促を受けてから知った |
| (5) 知らない →問 15 へ | |

14 問 13 で「(1) ～(4)」と回答した方にお聞きます。「(5)知らない」と回答した方は問 15 へ)

(ア) 減額返還制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| (1) 奨学金申請時・採用時の資料で | (2) 「返還のてびき」を読んで |
| (3) 日本学生支援機構のホームページで | (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で |
| (5) 返還相談センターに電話して | (6) 学校の説明会で |
| (7) 連帯保証人・保証人から | (8) 家族や友人・知人から(連帯保証人・保証人以外) |
| (9) 債権回収会社から | (10) テレビ・新聞などのマスメディア |
| (11) その他() | |

(イ) 減額返還制度の利用についてお聞きます。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 利用したことがある | (2) 利用したことがない |
|---------------|---------------|

15 日本学生支援機構からお送りしている郵便物(請求書や通知・はがき)についてお聞きます。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| (1) 必ず見る | (2) だいたい見る | (3) あまり見ない |
| (4) 見ない | (5) 届いていない | (6) その他() |

16 日本学生支援機構のホームページについてお聞きます。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|------------------------|-------------|----------------|
| (1) おおよそ 1 か月に 1 回以上見る | (2) 年に数回見る | (3) 過去に見たことがある |
| (4) 見たことはない | (5) 見るができない | (6) その他() |

17 日本学生支援機構の奨学金に対してどのように感じていますか。それぞれあてはまる番号に一つずつ○をつけてください。

(ア) 日本学生支援機構からの情報提供は十分である

- | | | | | |
|-------------|----------|---------------|------------|--------------|
| (1) とてもそう思う | (2) そう思う | (3) どちらともいえない | (4) そう思わない | (5) 全くそう思わない |
|-------------|----------|---------------|------------|--------------|

(イ) 現在、奨学金の返還が負担になっている

- | | | | | |
|-------------|----------|---------------|------------|--------------|
| (1) とてもそう思う | (2) そう思う | (3) どちらともいえない | (4) そう思わない | (5) 全くそう思わない |
|-------------|----------|---------------|------------|--------------|

(ウ) 借りたものなので必ず返さなければならない

- (1) とてもそう思う (2) そう思う (3) どちらともいえない (4) そう思わない (5) 全くそう思わない

18 日本学生支援機構の制度についてお聞きします。それぞれあてはまる番号に○を記入してください。

(ア) 繰上返還制度(返還期日がきていない将来の返還分の一部または全額を繰り上げて返還することができるしくみ)

- (1) よく知っている (2) だいたい知っている (3) あまり知らない (4) 知らない

(イ) スカラネット・パーソナル(インターネット上で自分自身の奨学金に関する情報や登録されている内容を閲覧したり、転居・改姓・勤務先変更等の届出ができるサービス)

- (1) よく知っている (2) だいたい知っている (3) あまり知らない (4) 知らない

(ウ) 所得連動返還方式(収入額に応じて、収入が低い間は少ない金額を、収入が高くなったら多い金額を返還していく方法)
※ 現在は平成 29 年度以降に第一種奨学生に採用された方のみ利用可。

- (1) 利用したい (2) 利用したくない(定額が良い) (3) よくわからない

19 今までに奨学金の返還を延滞したことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 延滞したことがない →問 21 へ (2) 延滞したことがある
(3) わからない →問 21 へ

20 問 19 で「延滞したことがある」と回答した方にお聞きします。「(1)」または「3」と回答した方は問 21 へ。

(ア) 延滞になったことをどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 機構(旧日本育英会)からの振替不能(延滞)通知 (2) 機構(旧日本育英会)からの電話
(3) 連帯保証人・保証人からの連絡 (4) 口座残高を確認して
(5) 親・家族等からの連絡 (6) 債権回収会社からの連絡
(7) その他()

(イ) 延滞をどのように解消しましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 本人が延滞額を支払った(口座振替を含む) (2) 本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)
(3) 返還期限猶予が承認された (4) その他()

21 日本学生支援機構の奨学金は主にどのように役立ちましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金のおかげで進学が可能となった (2) 修学費に充てる金額を多くできた
(3) 家計の負担を軽減できた (4) アルバイトの時間を減らすことができた
(5) その他()

22 日本学生支援機構の奨学金制度について、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

この回答用紙および同封の返信用封筒は、個別のご相談にはご利用いただけません。

○ご相談、お問合せは「奨学金返還相談センター」までお願いします。

電話 : 0570-666-301(ナビダイヤル・全国共通)

月曜～金曜・8時30分～20時00分(祝日・年末年始を除く)

ナビダイヤルをご利用できない場合は 03-6743-6100 へおかけください。

日本学生支援機構ホームページ << <https://www.jasso.go.jp/> >>

ご協力ありがとうございました。